

令和6年度東京都社会福祉事業団事業報告

I 事業団運営施設

事業団は、児童養護施設6施設、障害施設4施設（うち2施設は児・者併設）、計10の都立施設について、指定管理者として管理運営している。

また、自主運営施設として、立川療護園 はごろもの音、希望の郷 東村山の2施設を運営するとともに、共同生活援助事業等の自主事業を実施している。

【指定管理施設】

<児童養護施設：6施設>

東京都石神井学園	令和2年度から令和11年度まで (第5期指定管理期間)
東京都小山児童学園	
東京都船形学園	令和3年度から令和7年度まで (第6期指定管理期間)
東京都八街学園	
東京都勝山学園	
東京都片瀬学園	

<福祉型障害児入所施設：3施設>（うち2施設は障害者支援施設との併設）

東京都七生福祉園（併設）	令和3年度から令和7年度まで (第6期指定管理期間)
東京都千葉福祉園（併設）	
東京都東村山福祉園	令和5年度から令和9年度まで (第6期指定管理期間)

<障害者支援施設：3施設>（うち2施設は福祉型障害児入所施設との併設）

東京都七生福祉園（併設）	令和3年度から令和7年度まで (第6期指定管理期間)
東京都千葉福祉園（併設）	
東京都八王子福祉園	

【自主運営施設】

<障害者支援施設：2施設>

立川療護園 はごろもの音
希望の郷 東村山

【自主事業】

＜共同生活援助事業（グループホーム）＞（ ）はユニット

あおば〈七生福祉園〉 （あおば、あすか、のぞみ1、のぞみ2、らいふ、みらい1、みらい2）
きらり〈希望の郷 東村山〉 （きらり、ウィズ、どらやき、けやき、かえで）

＜一般相談支援事業＞

相談支援ステーションほたる 〈立川療護園 はごろもの音〉	相談支援室ポレポレ 〈八王子福祉園〉
---------------------------------	-----------------------

＜特定相談支援事業＞

ここななお 〈七生福祉園〉	東村山相談支援事業所 〈希望の郷 東村山〉	相談支援ステーションほたる 〈立川療護園 はごろもの音〉
相談支援室ポレポレ 〈八王子福祉園〉	相談支援事業所 ふわり 〈東村山福祉園〉	

＜障害児相談支援事業＞

相談支援事業所 ふわり 〈東村山福祉園〉

Ⅱ 事業実績

令和6年度は、次の4点に重点を置いて施設運営を行った。

- 1 利用者・児童の権利擁護及び最善のサービスの提供
- 2 支援技術の蓄積及びそれを活かした高度なケアの提供
- 3 施設機能を活用した地域等との連携
- 4 運営体制の強化及び経営の透明性確保

事業団「経営理念」に基づき策定した、事業団第Ⅱ期中期経営計画（以下「第Ⅱ期計画」という。）の最終年度となる令和6年度は、第Ⅱ期計画で定めた3つの経営理念及び4つの中長期経営目標を踏まえ、都立施設の指定管理者並びに自主運営施設の経営者として、障害施設及び児童養護施設の運営に万全を期すとともに、利用者本位のサービスの徹底と児童一人ひとりに寄り添った支援を行った。また、東京の福祉のセーフティネットとしての役割を果たすとともに、施設機能を活用し、地域との共生を推進した。

第Ⅱ期計画においては、「虐待防止や利用者・児童の意思を尊重した支援など権利擁護の徹底」を重点的取組の第一に位置付けており、これまでの取組内容の充実や

継続実施に加え、外部専門家による施設コンサルテーションを拡充するなど、支援技術を向上させるとともに全施設共通の支援記録システムの運用を開始し、ヒヤリ・ハットの見える化に向けての取組を進め、事故等の未然防止と施設と本部の連携強化に寄与した。各施設では「重大事故ゼロ運動」として、マルトリートメント（不適切な養育）防止等の研修や管理監督者による職場巡回を行ったほか、職員一人ひとりが虐待等防止に主体的に取り組む個人目標を設定しPDCAサイクルを実施するなど、事業団を挙げて事故防止に向けた取組を実施した。

また、第Ⅱ期計画が終了することを受け、法改正など事業団を取り巻く状況の変化や事業・取組の進捗状況及び課題等を踏まえるとともに、10年後の将来像を見据え、今後5年間の具体的な取組を示すため、検討委員会を設置し、事業団第Ⅲ期中期経営計画を策定した。

質の高い人材の安定的な確保に向けて、パンフレット・動画を活用し、仕事の魅力・やりがい、充実した人事給与制度・給与水準等の法人の魅力を、学校訪問や採用説明会、各種イベント等で積極的にPRして、採用活動を行った。また、地方大学も含め、採用イベントへの参加を拡充し、イベントで事業団ブースを訪れた学生等を応募に繋げた。再採用については、キャリアリターン登録制度も活用し、従来より多くの再採用職員を確保した。さらに、学校推薦制度や実習生等特別制度についても、学校との連携強化等を図り、活用を進めた。

採用時の丁寧な配属先マッチングや継続的なフォローなど、内定辞退防止や早期離職防止・定着に向けた取組を充実させた。

高い専門性を発揮できる職員の育成については、「事業団人材育成方針」に基づきOJTや研修等をはじめ、職員の能力開発と意識改革に取り組んだ。

児童養護施設は情緒・行動上の課題を抱えるなど支援の困難な児童を多数受け入れるため、石神井学園・片瀬学園の職員体制を強化して、受入れ数を増やした。

障害施設においては、地域で暮らす障害者（児）の生活を支えるため、生活介護や短期入所、相談支援事業等を実施し、立川療護園はごろもの音においては、これらに加え、栄養士による公開講座の実施や地域交流スペースの開放など、新たな地域との交流の構築に取り組んだ。

さらに、大規模な災害が発生した場合を想定し、事業継続計画（BCP）及び対応マニュアルに基づく訓練を行ったほか、地域の総合防災訓練等への参加など地域との協力体制構築に取り組んだことに加え、令和6年1月1日に発生した能登半島地震に対し、職員の派遣を行った。

※ 以下、各事項のアクションは、第Ⅱ期計画に掲げた目標ごとのアクションを記載している。

1 利用者・児童の権利擁護及び最善のサービスの提供

(1) アクション I - ① 権利擁護（虐待防止等）の徹底

事業団虐待等防止委員会において各施設における事案や取組を共有・検証することにより、各施設の危機管理意識・人権意識の強化に取り組んだ。研修では、全職員悉皆で行う e-ラーニングの虐待防止（総論）研修に加え、権利擁護に精通した弁護士講師による講義とグループワークを取り入れた直接支援職員向けの研修や虐待の未然防止と早期対応強化のため、具体例に基づき、事案発生後の事後対応や再発防止策の検討を行うグループワークを取り入れた管理監督者向け研修を実施した。

また、過去に事業団で発生した事案について、背景や問題点、再発防止策や処分内容等を明示した「虐待事案の事例集」を各施設に周知し、職員一人ひとりの意識啓発を図るとともに、風通しが良く相談しやすい職場づくりに向け、管理監督職による夜間巡回や、全職員アンケートを踏まえた施設ごとの意見交換会を実施した。さらに外部専門家によるコンサルテーションやスーパーバイズを活用し、職員の支援技術の専門性を一層向上させ、事業団全体で利用者・児童の権利擁護の推進と安全・安心な生活の確保に取り組んだ。

各施設においては、施設ごとの状況に応じて「重大事故ゼロ運動」に掲げた取組を着実に実施するとともに、虐待防止マネージャー等が中心となって現場職員一人ひとりの取組状況等を確認するなど、不適切な対応は小さな芽のうちに気づき、組織的に対応することを徹底した。

(2) アクション I - ② 利用者・児童等からの要望や苦情への適切な対応

福祉サービス第三者評価の受審や苦情相談のための第三者委員の設置・活用などにより、各施設で提供しているサービスを客観的な視点から検証、評価する体制を整備し、更なる改善の取組を進め、利用者・児童の意見や要望等をサービスに反映し、利用者・児童の満足度の一層の向上に取り組んだ。

■ 福祉サービス第三者評価の活用

令和5年度の指摘事項について改善に取り組むとともに、令和6年度も全施設において受審した。

受審結果を踏まえた改善を行い、常に第三者の視点からサービスの点検・評価を受け、その結果を踏まえて改善を行うPDCAサイクルを定着させることにより、より開かれた施設運営と、サービス水準の向上に貢献した。

■ 苦情解決制度等の充実

第三者委員による定期的な相談の実施や適切な苦情対応など、利用者・児童が施設に対して意見や苦情を伝えやすい環境を整備するとともに、苦情に対する迅

速な対応、利用者・児童からの意見のサービスへの反映に取り組んだ。

■ 利用者満足度調査の実施

各施設のサービスについて、施設独自の利用者満足度調査を全施設において実施し、利用者の率直な意見や要望等を把握した。利用者が満足できる生活の実現を目指し、これらの利用者の声を十分に踏まえたサービスの向上や改善に取り組んだ。

(3) アクションⅠ-③ リスク管理の推進

■ リスクマネジメントの徹底

日々の支援等の記録を適切に残すことやヒヤリ・ハット事例の収集・検証が事故防止のために重要であることを周知徹底するとともに、各施設のリスクマネジメント委員会等でヒヤリ・ハット事例の検証等を行い、事故等の未然防止に努めた。

事故が起こった場合は、利用者・児童の安全確保の上、速やかに事務局への報告を行うなど、迅速かつ適切な対応を行った。

また、権利保護を目的として設置している見守りカメラを活用し、事後検証を行い、原因の究明や問題点への対応の見直しを行うことで、再発防止を徹底した。

■ 感染症対策の徹底

新型コロナウイルス感染症等の感染症が発生した際は、必要に応じて個室隔離を行うなど、感染拡大の防止に努めた。

また、クラスターが発生した際は、関係機関との連携に加え、感染症発生時のBCPに基づき、施設の状況に応じてゾーニング箇所を設定する等、施設機能の低下を最小限に抑えながら利用者・児童への支援を継続した。

■ 個人情報保護、情報セキュリティ対策の徹底

個人情報保護に関する方針（プライバシーポリシー）及び事業団個人情報保護規程等を遵守し、個人情報の適正な管理を行った。

また、サイバー攻撃等の脅威に対応するため、全職員向けの注意喚起を毎月行ったほか、標的型メール訓練を初めて実施し、その結果を各園に還元しながら注意喚起を行うなど、職員一人ひとりの情報セキュリティに対する意識向上を行った。

(4) アクションⅠ-④ 利用者・児童の人生の選択肢を広げる支援

経営理念の第一、利用者本位のサービスの徹底と一人ひとりに寄り添った支援

を実現するため、各職員が連携・協力しながら、安全・安心の確保を図るとともに、利用者・児童一人ひとりに向き合い、その個性や主体性を尊重したサービス・支援を提供した。

■ 児童養護施設における取組

児童一人ひとりの意思や個性を大切に、児童が安全で安心した日常生活を送る中で、心身ともに健全な成長を遂げ、将来に向けた自立の意欲や生活力を育んでいくことができるよう質の高いサービスを提供した。

- ・ 児童が、安心して生活し、職員との愛着関係を育み、大切にされているという実感が持てるように、家庭的な寮（棟）運営やグループホームの円滑な運営等を推進した。
- ・ 個々の児童の意向や課題を踏まえた自立支援計画に基づき、児童相談所や学校、病院等の関係機関との連携を図りながら、家庭復帰や社会的自立に向けて、きめ細かな支援を行った。
- ・ 被虐待児や発達障害児、高齢児が増加していることを踏まえ、心理的療法やCAP（子供への暴力防止プログラム）など、様々な支援プログラムを活用し、専門的な支援を充実させた。
- ・ 保護者との信頼関係を築くとともに、親子宿泊や一時帰宅など家庭との交流を図り、親子関係の再構築を着実に推進した。

また、家庭支援専門相談員を中心として、児童・保護者の意向確認や、児童相談所、学校等関係機関との連絡調整、家庭訪問等を実施し、親子関係再構築支援に取り組んだ。

- ・ 家庭復帰や就職、進学等の社会的自立を目指す児童に対して、自立支援コーディネーター等を中心に自活訓練室の活用等により準備を行ったほか、児童の状況によっては早期に関係者会議を開催し方針を検討するなど、自立に向けた準備を行った。

また、卒園後の児童が安定した自立生活を送れるよう、必要に応じて居住費支援や相談支援を行うとともに、事業団独自の「退所児童等自立支援基金」を活用した経済的支援を行うなど、退所児童の状況に応じてアフターケアに取り組んだ。

- ・ 新たに障害児等受入調整員を配置し、医療機関や福祉施設、後見人等との連絡調整を行うことで、受入及び支援体制の強化を行った。

■ 障害施設における取組

利用者が安心して生活し、基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活又は社会生活を営むことができるよう質の高いサービスを提供するとともに、安全・安心な施設環境の整備に努めた。

- ・ 利用者が、安心して生活するとともに、自立した日常生活や社会参加がで

きるよう、希望する生活や課題を丁寧に把握した上で、個別支援計画を作成し、個々の状況に応じた質の高いサービスを提供した。

- 利用者の高齢化や障害の重度化に対応するため、医療的ケアの提供、理学療法等の訓練を実施するとともに、心理療法等の専門的支援や個別支援を充実した。
- 地域生活を希望する利用者に対し、住居の確保や関係機関と連携するなど、必要な支援を積極的に行った。
- 障害児入所施設においては、児童相談所や区市町村、学校等と連携を取りながら、障害福祉サービスの利用を確実に繋げ、利用者の望む生活に向けて計画的な支援を行った。また、令和6年度末で廃止した千葉福祉園の入所児童は、年度末までに全員グループホーム等への移行を果たした。
- 生活介護や短期入所等の実施により地域で暮らす障害者の生活を支えるとともに、相談支援事業により、入所施設や精神科病院等からの退所・退院に向けた地域移行・地域定着を推進した。

(5) アクションⅠ－⑤ 社会需要も見通した施設の改築・改修 (アクションⅡ⑤の再掲)

小山児童学園は、老朽化した建物の改築に向けた基本設計が終了し、実施設計へ向けた検討を進めた。また、八王子福祉園は、本設の改築工事の検討と並行して、工事期間中の移転先となる仮設建物の実施設計など、必要な検討を進めた。千葉福祉園についても、改修工事に係る基本計画の策定など、都と連携して必要な調整を行った。

2 支援技術の蓄積及びそれを活かした高度なケアの提供

(1) アクションⅡ－① 高い専門性を発揮できる職員の育成 (アクションⅠ⑦の再掲)

アクションⅡ－④ 質の高い人材の確保・定着 (アクションⅠ⑥の再掲)

福祉人材の確保が年々厳しさを増す状況を踏まえ、質の高い人材の安定的な確保に向けた取組を強化しており、採用数の増加と離職率の低下により欠員の解消が進んだ。また、高い専門性や職級に応じたスキルを備えた職員を育成するため、人材育成方針及び研修計画に基づき、①職務を通じたOJTの推進、②計画的かつ効果的な研修の実施、③自己啓発支援制度、を3つの柱として人材育成にも取り組んだ。

各施設においては、施設全体でOJTを推進する体制の構築に努めるとともに、施設の実態を踏まえた独自の研修を充実強化し、これまで蓄積してきた利用者・児童支援のノウハウを若手職員に早期に引き継ぎ、サービス提供の中核を担う職員の育成を図った。

■ 質の高い人材の確保・定着対策の充実

質の高い人材を安定的に確保していくため、事業団パンフレット・動画を活用し、仕事の魅力・やりがい、充実した人事給与制度・給与水準を採用説明会や学校訪問時に積極的に発信し、法人の魅力をアピールした。

また、学生の就職活動時期を踏まえて、採用活動を前年の1月に早めて開始するとともに、キャリア採用や再採用など多様な採用チャネルによる通年採用も実施した。加えて、実習受入校を中心に学校との連携強化により採用実績を増加させた。さらに、地方出身者の上京費用を支援する「地方上京パッケージ」を活かし、地方の学校への訪問や地方イベントへの出展など、首都圏以外の地域での採用活動も展開した。併せて、千葉県に複数の施設があることから、千葉エリアにおける採用活動も強化した。

人材の定着のため、給与制度をわかりやすく現場職員に発信するとともに、正規職員の給与制度と同等の考え方及び同一労働・同一賃金の観点等を踏まえ、非常勤職員等の報酬を見直したほか、人事委員会勧告等を踏まえた給与改定など継続的な給与改定を実施した。また、子育て部分休暇や夏季休暇の取得期間を拡大するなど、職員の働きやすい環境の整備に向け制度改正を行った。さらに、令和5年度に実施した「職員満足度アンケート」の結果を集計・分析し、各園に離職防止の参考資料として結果をフィードバックするとともに、3回目となる職員満足度アンケートを実施した。新規採用職員に関しても、早期離職を防止するため個別フォローに努めている。

■ OJT推進体制の強化

各施設に配置したOJT推進担当者及び新任職員育成担当者（チューター）が積極的に活動することで、人材育成の基本であるOJTの推進に事業団全体で取り組んだ。

新任職員の育成を図るため、新任職員の育成の中核を担うチューターに対する研修について、年間を通じた育成手順や効果的な指導方法などを習得させることで、より効果的な育成に取り組んだ。

■ 計画的・効果的な研修の実施

「事業団人材育成方針」に基づき、職級に応じた育成目標を明確にし、体系的な研修を行った。また、児童養護施設・障害者（児）施設別に作成した「業務の手引き」を新任職員に配付し、施設でのOJTやOff-JTでの活用に供した。

研修は、昨年度の研修評価を踏まえて、研修の内容を、より充実したものに見直した。

■ 高い専門性を発揮できる職員の育成

各施設において、個々の利用者に応じた質の高いサービスを提供するため、高度な専門的支援技術やノウハウを身に付けた職員を計画的に育成した。

東村山福祉園は重度・最重度の知的障害児を、八王子福祉園及び希望の郷東村山は、重度・最重度の知的障害者を受け入れている。中でも、高度な専門的支援技術・ノウハウが必要な強度行動障害を有する児童や利用者を多く受け入れているため、強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践)の受講者を計画的に増やすとともに施設コンサルテーションを継続して実施し、支援力の向上に取り組んだ。また、東京都の要請に基づき、強度行動障害支援者養成研修の演習講師やファシリテーターとして、職員を多数派遣した。

立川療護園はごろもの音及び八王子福祉園においては、利用者の高齢化等に対応するため、たんの吸引をはじめとした医療的ケアができる福祉職を計画的に育成した。

■ 自己啓発支援制度の効果的な活用

職員の「自ら育つ」意識を引き出し、自己啓発の機運を高め、自学を促す職場風土を醸成するため、自己啓発支援制度を積極的に活用し、介護福祉士やこども家庭ソーシャルワーカー等の職員の資格取得や通信教育講座等の受講を支援した。

■ 支援技術の共有化及び活用促進

事例研究発表会はオンライン開催とし、当日参加できなかった職員に動画で発表内容を視聴できるよう工夫を行い、各施設や職員の先進的な取組やノウハウの共有化を図り、事業団全体での活用を促進した。

また、外部有識者による講評を行い、客観的視点での評価を行うとともに、優れた発表を表彰した。

職員提案制度は、昨年度の実施結果を踏まえて、より公平な審査が行えるよう審査基準を見直し、実施した。また、優れた提案は、他施設へ横展開ができるよう、周知した。

■ 外部専門家、外部医師等との連携

困難事例への対応について、高い専門性とスキルを備えた外部専門家や経験豊富な職員OBによるスーパーバイズ、職員の悩みや不安を受け止める訪問相談員の設置、非常勤医師による定期巡回相談等を継続するとともに、施設コンサルテーションを実施し、その取組実績を報告会により職員へ還元を行うなど、職員の支援技術の向上や知識の習得を図り、特別な支援が必要な利用者・児童の多様で重層的な課題に対応した。

(2) アクションⅡ-② 東京の福祉の増進に寄与する先駆的取組の推進

東京の福祉のセーフティネットとしての役割を引き続き担うため、特別な支援

が必要な児童や利用者・児童を施設機能に応じて積極的に受け入れ、地域の教育機関をはじめ関係機関と連携・協働し、利用者・児童の生活を支援した。

また、先駆的な取組を推進し、東京の福祉の増進に努めた。

■ 特別な支援が必要な児童・利用者の受入れ

児童養護施設では、虐待による様々な症状を持つ児童、情緒・行動上の課題を抱える高齢児、他施設での支援が困難なため措置変更された児童等、特別な支援が必要な児童を積極的に受け入れた。

また、障害施設では、最重度障害者や強度行動障害を有する知的障害者等、特別な支援が必要な利用者を積極的に受け入れるとともに、強度行動障害への対応やたんの吸引等の専門的ケアが行える職員を計画的に育成し、セーフティネットとしての機能を強化した。

■ 先駆的な施策の実施

虐待による重篤な症状を持つ児童に生活支援・医療・教育を一体的に提供する「連携型専門ケア機能モデル事業」を実施し、原籍施設への復帰を目指す先駆的な施策に積極的に取り組んだ。東京都や関係機関と連携して事業の検証を行い、令和7年度からは本格実施することとした。

(3) アクションⅡ－③ 先進的取組等により蓄積してきた支援技術を他団体へ普及

他の民間法人では受入れが困難な強度行動障害を有する利用者等に対する専門的支援等、事業団施設で蓄積されたノウハウや専門的な支援技術を「強度行動障害支援者養成研修」の講師やファシリテーターとして、職員を派遣するなどにより外部に提供した。また、「東京都サービス管理責任者等養成研修」にもファシリテーターとして職員を派遣した。あわせて、見学者や将来の福祉人材である実習生を積極的に受け入れ、東京の福祉水準の向上に寄与した。

児童養護施設や障害児入所施設では、児童相談所など関係機関との連携強化が不可欠であることから、児童相談所と相互派遣研修を実施し、施設の状況や支援技術について理解を深めてもらうとともに、事業団職員の支援力の向上を推進した。

3 施設機能を活用した地域等との連携

(1) アクションⅢ－① 地域で暮らす障害者・障害児を支援

在宅で生活している障害者（児）とその家族などを支援するため、関係機関等と連携し、通所による生活介護事業や短期入所事業、日中一時支援事業などを実施した。

また、各施設で相談支援事業を行うとともに、計12ユニットのグループホ

ームを運営することにより、地域で生活する障害者（児）を支援した。

(2) アクションⅢ－② 地域における子育て家庭等を支援

地域の子育て家庭などを支援するため、石神井学園では、子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）を実施した。また、それぞれの児童養護施設が有する子育て等のノウハウを公開講座等を通じて提供した。このほか、東村山福祉園では、地域の障害児とその家族への支援をするため、春季・夏季・冬季の学校休業期間の障害児の日中活動の場所の確保、及びその家族の緊急時における一時的な保護や休息を目的として日中一時支援事業を実施し地域の障害児の福祉の推進に貢献した。

(3) アクションⅢ－③ 地域が求める役割を担い、地域と協働（コミュニティづくりや災害対応等）

■ 地域における公益的な取組

社会福祉法の趣旨を踏まえ、各施設において地域の実情やニーズに応じて、地域で生活する障害者や子育て世帯等を支援した。例えば、片瀬学園では、片瀬地区青少年協力会やPTA、片瀬公民館と協力して子育て講演会を開催し、立川療護園はごろもの音では、近隣の高校と協力し、地域交流スペースで子ども食堂を開催した。このように各施設において機能や人材を活用した取組を行うなど、地域の公益的な課題に取り組んだ。

■ 多様な主体との連携

支援が必要な利用者や児童を広域的に受け入れる役割を担うため、利用者や児童の生活を共に支える地元自治体や学校、医療機関、企業やNPOなどの地域コミュニティへ参画し、地域との協働を進めた。

■ 地域との連携・協力関係の強化

地域の自立支援協議会等への参画や、施設で実施する園祭等の行事や公開講座等への住民参加、地域で行う福祉関連講座への講師派遣、地元自治会との合同防災訓練の実施など、地域と施設の相互交流を推進し、地域に開かれた施設として連携・協力関係を強化した。

■ 災害・防犯対策の取組強化

大規模な災害が発生した場合においても、利用者・児童や職員の生命及び安全を確保し、かつ、施設機能を維持できるように、「事業継続計画（BCP）及び対応マニュアル」に基づき、定期的な訓練や食糧等の備蓄を確実に行った。

また、全職員の携帯端末に通知が届く安否確認システムを新たに導入し、事業団全体で初動体制の整備や施設間の連携・協力に向けた合同訓練を実施するとともに、地域との連携を推進しただけでなく、令和6年1月1日に発生した能登半島地震に対して、法人全体で7人の職員を被災地に派遣した。不審者対策等の防犯対策については、警察等と連携して防犯訓練を実施するなど、対応を進めた。

4 運営体制の強化及び経営の透明性確保

(1) アクションⅣ-① 「事業団人材育成方針」に基づく組織・人事制度の運用

「事業団人材育成方針」に基づき、職員一人ひとりの意欲と能力を最大限引き出し、更なる育成が図られるよう、組織・人事制度の運用を行った。また職員の適性や能力等に応じて、管理職層（ジェネラルマネージャー）や監督職層（マネージャー、サブマネージャー）の計画的な任用を進め、法人・施設運営の中核を担う管理監督者ポストへの固有職員の登用を進めた。なお、「事業団人材育成方針」の前回改定（令和4年3月）以降に生じたジョブローテーションや管理スパンに係る課題に対応するため、人材育成方針検討部会において、改定作業を進めた。

(2) アクションⅣ-② 自律的な経営実現のための自主財源の確保

■ 効率的な施設経営の実施等

業務の見直しや契約内容の精査など効率的な施設運営に努めるとともに、自主運営施設・自主事業の経営状況や課題の把握、共有を進めるなど、自立的経営に向けた体制の整備を進めた。予算管理や会計業務の効率化のため、拠点区分やサービス区分の設定を見直し、短期入所事業等を施設の拠点区分にまとめ、一つの拠点として資金管理を行えるよう整備した。また、節電対策や温暖化対策等の環境への配慮や、物価高騰への対応に努めた。

会計監査人による監査について適切に対応し、法人の会計の健全性及び透明性の向上に努めた。

■ 自主財源の確保等

自主運営施設においては、施設入所に欠員が生じた場合は速やかに入所者の検討を行うよう務めた。

(3) アクションⅣ-③ ICTや次世代介護機器を活用した働きやすい職場環境の整備

事業団全体で、業務システムの統一化を段階的に進め、支援記録システムにおいては児童養護施設版の改修を行い、障害施設版は開発が終わり稼働するなどICT環境を整備した。各施設では、「居室内見守りカメラ」を追加導入したほか、

「排泄センサー」等の次世代介護機器等を導入し、業務の効率化や負担軽減を図り、働きやすい職場環境の整備を促進した。

また、5つのレス（はんこレス・FAXレス・ペーパーレス・キャッシュレス・タッチレス）を推進するため、一部規程・様式の改訂や会議方法の見直し、ネット通販の活用等の取組を着実に進めた。

（4）アクションⅣ－④ 魅力とやりがいにあふれる職場環境の実現

職員が意欲を持っていきいきと働き続けられるよう、意見交換会や日頃のコミュニケーションの活性化等による風通しの良い職場づくりを推進するとともに、ストレスチェックの実施などのメンタルヘルス対策により、心身ともに健康に働ける充実した職場環境の整備を図った。

また、職員満足度アンケートの結果を各職場にフィードバックすることにより、職場環境の改善を促した。

（5）アクションⅣ－⑤ コンプライアンスの推進

職員一人ひとりが高い規範意識を持ち、汚職等非行防止はもとより、コンプライアンス研修等を通じて、福祉に携わる者としての倫理観の醸成が図られるよう引き続き取り組んだ。

また、事業団全体のガバナンス強化のために設置した、外部委員を含む事業団コンプライアンス委員会を年2回開催し、重大事故防止に関する取組内容について意見交換する等、事業団全体のコンプライアンスの強化・向上に向けて取り組んだ。

Ⅲ 理事会、評議員会の開催状況

1 役員等の状況

社会福祉法等の一部を改正する法律の施行に伴い、平成29年4月に定款を変更し、評議員の定数を9人以上11人以内、理事定数を8人以上10人以内、監事定数を2人と規定した。

現在、評議員10人、理事9人、監事2人、評議員選任・解任委員5人が選任され、就任している状況である。

令和7年3月31日現在の役員、評議員及び評議員選任・解任委員は、15頁から17頁のとおりである。

2 理事会の開催状況

令和6年度は、定例の理事会を4回（6月、9月、12月、3月）開催した。また、書面によるみなし決議を3回（4月、6月、2月）実施した。

審議事項は、事業計画・報告、予算・決算、諸規程の一部改正などとなっている。

令和6年度の理事会開催日及び審議事項の詳細は、18頁から19頁のとおりである。

3 評議員会の開催状況

令和6年度は、定時評議員会を6月27日に、臨時の評議員会を3月28日に開催した。また、書面によるみなし決議を1回（12月）実施した。

審議事項は、監事の選任等であり、定款の規定に基づき事業計画・報告、予算・決算などについて報告を行っている。

令和6年度の評議員会の開催日及び審議事項の詳細は、20頁のとおりである。

4 評議員選任・解任委員会の開催状況

令和6年度は、評議員選任・解任委員会の書面によるみなし決議を1回（3月）実施した。

令和6年度の評議員選任・解任委員会の開催日及び審議事項の詳細は、20頁のとおりである。

社会福祉法人東京都社会福祉事業団役員名簿

令和7年3月31日現在

	氏名	現職	備考
理事長	やまぎし のりお 山岸 徳男	社会福祉法人 東京都社会福祉事業団 理事長	令和4年4月1日就任
理事	ふじおか たかし 藤岡 孝志	日本社会事業大学 名誉教授	平成26年6月29日就任
理事	わけ やすた 和氣 康太	明治学院大学 教授	平成24年6月29日就任
理事	ひろかわ りえこ 廣川 理恵子	弁護士	令和3年6月29日就任
理事	にしだ しんいち 西田 伸一	東京都医師会 理事	平成29年8月1日就任
理事	ささき きよどう 佐々木 晶堂	社会福祉法人蓮花苑 理事長	平成24年6月29日就任
理事	ありが ひろし 有賀 弘	社会福祉法人しあわせ会 理事 (白州いずみの家施設長)	令和5年6月30日就任
理事	ふじい まりこ 藤井 麻里子	社会福祉法人 東京都社会福祉事業団 事務局長	令和6年4月1日就任
理事	はやし なおき 林 直樹	東京都片瀬学園 園長	令和3年4月1日就任
監事	さいとう かずき 齊藤 一紀	社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会 元常務理事	平成29年6月23日就任
監事	いしむら みつよ 石村 光代	公認会計士・税理士	令和4年5月25日就任

社会福祉法人東京都社会福祉事業団評議員名簿

令和7年3月31日現在

氏名	現職	備考
よこほり まさこ 横堀 昌子	青山学院大学コミュニティ人間科学部 教授	令和3年6月29日就任
やじま りえ 矢嶋 里絵	東京都立大学人文社会学部 教授	令和3年6月29日就任
ゆあさ かつみ 湯浅 克己	社会福祉法人東京コロニー 理事 (東京都大田福祉工場 事業所長)	令和3年6月29日就任
こいけ あきら 小池 朗	板橋区立赤塚福祉園施設長 (社会福祉法人嬉泉 事務局長)	令和3年6月29日就任
みやた ひろあき 宮田 浩明	社会福祉法人セント・ジョセフ会 理事長	令和5年7月20日就任
おかはし おさち 岡橋 生幸	一般社団法人福祉防災コミュニティ協会 理事	平成18年6月29日就任
さいとう ゆたか 齋藤 豊	東京都八王子福祉園 保護者会会長	令和4年6月17日就任
ふくしま たみお 福島 民雄	東京都七生福祉園 成人保護者会会長	平成28年6月29日就任
にしお じゅいち 西尾 寿一	福祉局 子供・子育て支援部長	令和5年4月1日就任
かとう みほ 加藤 みほ	福祉局 障害者施策推進部長	令和6年4月1日就任

社会福祉法人東京都社会福祉事業団評議員選任・解任委員会名簿

令和7年3月31日現在

氏 名	現 職	備 考
いしむら みつよ 石村 光代	公認会計士・税理士	令和4年6月13日就任
わだ しおり 和田 葉	社会福祉法人 東京都社会福祉事業団 事務局次長	令和6年4月1日就任
あらい きちこ 荒井 祥子	社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部長	令和5年4月1日就任
あさひな かましげ 朝比奈 和茂	弁護士	平成29年2月3日就任
いしづか たかし 石塚 宣	東京都福祉局 福祉人材・サービス基盤担当部長	令和6年6月27日就任

令和6年度理事会開催状況

開 催 日 時	審 議 状 況
書面によるみなし決議 令和6年4月1日	1 提案事項 第1号議案 業務執行理事の選定について
第一回 令和6年6月11日	1 審議事項 第1号議案 令和5年度事業報告書(案)について 第2号議案 令和5年度決算(案)について 第3号議案 令和6年度第一次補正予算(案)について 第4号議案 次期評議員選任・解任委員の選任(案)について 第5号議案 評議員会の招集について 2 報告事項 施設利用実績について 令和5年度予算の流用及び予備費の使用について 令和5年度実地検査結果について
書面によるみなし決議 令和6年6月27日	1 提案事項 第1号議案 会計監査人の報酬額について
第二回 令和6年9月19日	1 審議事項 第1号議案 社会福祉法人東京都社会福祉事業団職員給与規程の一部改正(案)について 第2号議案 令和6年度第二次補正予算(案)について 2 報告事項 施設利用実績について 第1回コンプライアンス委員会の報告について 検証委員会結果報告について
第三回 令和6年12月20日	1 審議事項 第1号議案 社会福祉法人東京都社会福祉事業団職員給与規程の一部改正(案)について 第2号議案 社会福祉法人東京都社会福祉事業団経理規程の一部改正(案)について 第3号議案 社会福祉法人東京都社会福祉事業団役員及び評議員の報酬等及び費用弁償に関する規程の一部改正(案)について 第4号議案 常勤役員の報酬等の額(案)について 第5号議案 令和6年度第三次補正予算(案)について 第6号議案 評議員会の招集について 2 報告事項 施設利用実績について 「第Ⅲ期中期経営計画」の検討状況について 令和7年度職員採用選考の状況について 2023年度東京都政策連携団体経営目標の達成状況について 令和5年度指定管理者管理運営状況評価結果について その他事案報告について
書面によるみなし決議 令和7年2月21日	1 提案事項 第1号議案 令和6年度第四次補正予算(案)について

第四回

令和7年3月27日

1 審議事項

- 第1号議案 社会福祉法人東京都社会福祉事業団定款細則等の一部改正（案）について
- 第2号議案 社会福祉法人東京都社会福祉事業団就業規則及び非常勤職員等就業規則の一部改正（案）について
- 第3号議案 社会福祉法人東京都社会福祉事業団職員給与規程の一部改正（案）について
- 第4号議案 社会福祉法人東京都社会福祉事業団旅費規程の一部改正（案）について
- 第5号議案 社会福祉法人東京都社会福祉事業団情報公開規程の一部改正（案）について
- 第6号議案 社会福祉法人東京都社会福祉事業団経理規程の一部改正（案）について
- 第7号議案 令和6年度第五次補正予算（案）について
- 第8号議案 「事業団第Ⅲ期中期経営経営計画」（案）について
- 第9号議案 令和7年度事業計画（案）について
- 第10号議案 令和7年度予算（案）について
- 第11号議案 理事候補者の推薦（案）について
- 第12号議案 評議員候補者の推薦（案）について
- 第13号議案 評議員選任・解任委員の選任（案）について
- 第14号議案 施設長の任免（案）について
- 第15号議案 評議員会の招集について

2 報告事項

- 施設利用実績について
- 令和6年度予算の流用及び予備費の使用について
- 令和7年度職員採用選考の状況について
- 令和7年度の施設運営体制について
- グループ連携事業評価結果について
- 事案報告について
- 第2回コンプライアンス委員会の報告について

令和6年度評議員会開催状況

開催日時	審議状況
定時 令和6年6月27日	1 報告事項 令和5年度事業報告書について 令和5年度決算について
書面によるみなし決議 令和6年12月31日	1 提案事項 社会福祉法人東京都社会福祉事業団役員及び評議員の報酬等及び費用弁償に関する規程の一部改正（案）について 常勤役員の報酬等の額（案）について
臨時 令和7年3月28日	1 提案事項 理事の選任（案）について 2 報告事項 社会福祉法人東京都社会福祉事業団定款細則等の一部改正について 「事業団第Ⅲ期中期経営計画」について 令和7年度事業計画について 令和7年度予算について

令和6年度評議員選任・解任委員会開催状況

開催日時	審議状況
書面によるみなし決議 令和7年3月31日	1 提案事項 評議員の選任について

Ⅳ 職員の状況（令和6年度）

1 職員配置【在籍職員数】

区分	職員種別					職種別						合計	うち管理職
	都派遣職員	正規職員	契約職員	嘱託員・再雇用	非常勤職員	事務	福祉	心理	栄養士	看護師	その他※		
本部事務局	13	8	0	1	0	21	1	0	0	0	0	22	3
石神井学園	19	69	1	2	13	7	81	4	1	2	9	104	2
小山児童学園	3	41	0	1	6	2	40	2	1	1	5	51	1
船形学園	4	32	0	2	7	5	30	2	1	1	6	45	1
八街学園	4	36	0	0	8	3	34	2	1	1	7	48	1
勝山学園	5	27	0	2	7	5	27	2	1	1	5	41	1
片瀬学園	2	37	1	3	6	4	36	2	1	1	5	49	1
児童養護施設 小計	37	242	2	10	47	26	248	14	6	7	37	338	7
七生福祉園	29	108	6	3	29	12	139	1	2	7	14	175	3
東村山福祉園	36	95	0	3	6	9	109	1	1	13	7	140	3
千葉福祉園	40	148	7	3	23	10	171	1	3	9	27	221	5
八王子福祉園	33	163	4	2	18	9	189	0	1	13	8	220	3
立川療護園 はごろもの音	0	67	5	2	9	3	71	1	1	4	3	83	1
希望の郷 東村山	0	134	3	0	10	3	137	1	2	3	1	147	1
障害施設 小計	138	715	25	13	95	46	816	5	10	49	60	986	16
合計	188	965	27	24	142	93	1,065	19	16	56	97	1,346	26

※その他…医師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、言語聴覚士、病院施設調理外

注) 1 4月1日現在、休職中等の職員を含む。

2 「非常勤職員」は、月16日以上勤務の職員を計上している。

3 都派遣職員は再任用職員を含む。

職員の状況（令和6年度）

2 職級構成（正規職員・契約職員）

区分	事務		福祉		栄養士		看護師	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
5級（ジェネラルマネージャー）	0人	0.0%	6人	0.7%	0人	0.0%	0人	0.0%
4級（マネージャー）	1人	3.3%	13人	1.5%	0人	0.0%	0人	0.0%
3級（サブマネージャー）	5人	16.7%	45人	5.0%	1人	9.1%	2人	5.9%
2級	16人	53.3%	417人	46.6%	10人	90.9%	32人	94.1%
1級	8人	26.7%	386人	43.2%	0人	0.0%	0人	0.0%
契約	0人	0.0%	27人	3.0%	0人	0.0%	0人	0.0%
合計	30人	100.0%	894人	100.0%	11人	100.0%	34人	100.0%

区分	心理		理学療法士・言語聴覚士		臨床検査技師		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
5級（ジェネラルマネージャー）	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	6人	0.6%
4級（マネージャー）	1人	6.3%	0人	0.0%	0人	0.0%	15人	1.5%
3級（サブマネージャー）	0人	0.0%	1人	25.0%	0人	0.0%	54人	5.5%
2級	10人	62.5%	3人	75.0%	1人	100.0%	489人	49.4%
1級	5人	31.3%	0人	0.0%	0人	0.0%	399人	40.3%
契約	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	27人	2.7%
合計	16人	100.0%	4人	100.0%	1人	100.0%	990人	100.0%

3 職員構成（福祉職）

区分	人数	割合	
正 規	861人	81.6%	89.7%
契 約	27人	2.6%	
嘱託員・再雇用	11人	1.0%	
非常勤	47人	4.5%	
都派遣	109人	10.3%	10.3%
合 計	1055人	100.0%	100.0%

注) 1 管理職（正規6名・都派遣1名・嘱託員1名）は集計外
2 都派遣職員は再任用職員含む

4 平均勤続年数（福祉職）

区分	3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上	合計	平均勤続年数
正 規	278人	107人	228人	248人	861人	7.8年
	32.3%	12.4%	26.5%	28.8%	100.0%	
全職員 （※）	311人	119人	261人	364人	1055人	9.3年
	29.5%	11.3%	24.7%	34.5%	100.0%	

※ 全職員：都派遣職員、正規職員、契約職員、嘱託員、再雇用職員、非常勤職員
注) 1 4月1日時点の在籍職員について、当該年度末の勤続年数・年齢により算出
2 管理職（正規6名・都派遣1名・嘱託員1名）は集計外
3 都派遣職員は再任用職員を含む

5 平均年齢（福祉職）

区分	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計	平均年齢
正 規	370人	233人	140人	111人	7人	861人	34.8歳
	43.0%	27.1%	16.3%	12.9%	0.8%	100.0%	
全職員（※）	377人	246人	155人	200人	77人	1055人	39.2歳
	35.7%	23.3%	14.7%	19.0%	7.3%	100.0%	

※ 全職員：都派遣職員、正規職員、契約職員、嘱託員、再雇用職員、非常勤職員
注) 1 4月1日時点の在籍職員について、当該年度末の勤続年数・年齢により算出
2 管理職（正規6名・都派遣1名・嘱託員1名）は集計外
3 都派遣職員は再任用職員を含む

6 管理職等への任用

	ポスト数	正規職員	割合
	a	b	b/a
園長・副園長等	21人	6人	28.6%
部門長	18人	8人	44.4%
グループリーダー等	62人	41人	66.1%
合計	101人	55人	54.5%

※ 園長・副園長等には、事務局管理職ポストを含む
※ グループリーダー等には、特命担当リーダーを含む
※ 正規職員以外のポスト配置は都派遣又は嘱託員

V 施設及び地域支援事業等の利用定員・利用実績

入所施設利用定員

種別	施設名	利用定員	事業種別	備考	
児童養護施設	石神井学園	130人	第一種社会福祉事業		
	小山児童学園	64人			
	船形学園	64人			
	八街学園	64人			
	勝山学園	64人			
	片瀬学園	48人			
	計	434人			
福祉型障害児入所施設	七生福祉園	156人(※1)	第一種社会福祉事業	(※1) この定員は施設入所支援(※2)及び生活介護(※2)を利用する者を含めた定員である。 (※2) 平成24年3月31日時点で、改正前の児童福祉施設条例に基づく七生福祉園、千葉福祉園において、知的障害児施設支援を受けていた者に係るものに限る。 (※3) この定員は福祉型障害児入所施設を利用する者を含めた定員である。	
	東村山福祉園	80人			
	千葉福祉園	48人(※1)			
	計	276人			
障害者支援施設	施設障害福祉サービス		第一種社会福祉事業		
		種類			利用定員
	七生福祉園	施設入所支援			150人
		施設入所支援(※2)			156人(※3)
		生活介護			144人
		生活介護(※2)			156人(※3)
		自立訓練(生活訓練)			6人
	千葉福祉園	就労移行支援			14人
		施設入所支援			320人
		施設入所支援(※2)			48人(※3)
		生活介護			320人
	八王子福祉園	生活介護(※2)			48人(※3)
		施設入所支援			160人
	立川療護園 はごろもの音	生活介護			180人
		施設入所支援			50人
	希望の郷 東村山	生活介護			70人
施設入所支援		80人			
計	生活介護	110人			
	施設入所支援	964人			
	生活介護	1,028人			
	自立訓練(生活訓練)	6人			
	就労移行支援	14人			

地域支援事業等利用定員

種別	施設名	利用定員	事業種別	備考
生活介護事業（通所分）				
	八王子福祉園	20人（再掲）	第一種社会福祉事業	障害者支援施設の利用定員に含まれる
	立川療護園 はごろもの音	20人（再掲）		
	希望の郷 東村山	30人（再掲）		
就労移行支援事業				
	七生福祉園	14人（再掲）	第一種社会福祉事業	障害者支援施設の利用定員に含まれる
短期入所事業				
	七生福祉園（児童）	7人	第二種社会福祉事業	
	七生福祉園（成人）	5人		
	東村山福祉園	10人		
	千葉福祉園（成人）	6人		
	八王子福祉園	10人		
	立川療護園 はごろもの音	6人		
	希望の郷 東村山	10人		
子育て短期支援事業				
	石神井学園	宿泊 7人 日帰り 8人	第二種社会福祉事業	
共同生活援助（グループホーム）事業				
	あおば（七生福祉園）	30人	第二種社会福祉事業	自主事業 7ユニット
	きらり（希望の郷 東村山）	34人		自主事業 5ユニット
一般相談支援事業				
	相談支援室 ポレポレ（八王子福祉園）		第二種社会福祉事業	自主事業
	相談支援ステーション ほたる（立川療護園 はごろもの音）			
特定相談支援事業				
	ここななお（七生福祉園）		第二種社会福祉事業	自主事業
	相談支援事業所 ふわり（東村山福祉園）			
	相談支援室 ポレポレ（八王子福祉園）			
	相談支援ステーション ほたる（立川療護園 はごろもの音）			
	東村山相談支援事業所（希望の郷 東村山）			
障害児相談支援事業				
	相談支援事業所 ふわり（東村山福祉園）		第二種社会福祉事業	自主事業
知的障害者短期入所事業				
	七生福祉園（成人）	日野市 1人	公益事業	市単独事業
知的障害者就労支援事業				
	七生福祉園（成人）	日野市	公益事業	市単独事業・自主事業
障害者児日中一時支援事業				
	東村山福祉園	東村山市 2人 東大和市 2人 小平市 1人	公益事業	市単独事業

児童養護施設利用実績

1 月別在籍児童数及び入退所者数

(人)

施設名	定員	運用定員		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	被虐待を理由とする入所児数					
																	主たる要因	従たる要因	計	率		
石神井学園	130	116	在籍児童数	84	90	91	93	95	91	90	91	92	93	98	101	92	72	13	85	82.5%		
			入所児童数	初日入所	1																	1
				その他	7	1	2	4	2		2	1	1	5	4	4					33	
			退所児童数	1			2	6	1	1						1					7	19
			一時保護委託	3	4	4	3	1	1	2	2	3	3	3	3	2					—	
小山児童学園	64	64	在籍児童数	47	46	46	43	44	44	44	45	45	45	45	45	45	45	34	4	38	84.4%	
			入所児童数	初日入所																		0
				その他				1	1	1	1						3					7
			退所児童数	1		3		1	1								5					11
			一時保護委託	1	1	1	2	1									—					
船形学園	64	54	在籍児童数	29	29	29	29	29	29	29	29	29	30	30	31	29	29	1	30	96.8%		
			入所児童数	初日入所																		0
				その他									1			1					2	
			退所児童数													3					3	
			一時保護委託													—						
八街学園	64	50	在籍児童数	36	37	36	36	37	37	38	37	36	35	34	34	36	26	5	31	91.2%		
			入所児童数	初日入所																		0
				その他	3		1	1	1	1											7	
			退所児童数	2	1	1		1		1	1	1	1	1							9	
			一時保護委託	2						1											—	
勝山学園	64	48	在籍児童数	38	39	39	39	39	38	39	40	42	42	42	42	40	27	6	33	78.6%		
			入所児童数	初日入所																		0
				その他	2	1				1	1	2									2	9
			退所児童数	2	1			1	1							4					9	
			一時保護委託	1	1	2	2														—	
片瀬学園	48	48	在籍児童数	30	32	30	30	28	28	28	31	32	33	34	35	31	28	7	35	100.0%		
			入所児童数	初日入所																		0
				その他	2					1	3	1	1	1	1	4					14	
			退所児童数		2		2		1							2					7	
			一時保護委託	1	1	1	1	2	2	1	1										—	
計	434	380	在籍児童数	264	273	271	270	272	267	268	273	276	278	283	288	274	216	36	252	86.9%		
			入所児童数	初日入所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	1
				その他	14	2	3	6	4	4	7	4	3	6	6	13					72	
			退所児童数	6	4	4	4	9	4	2	1	1	1	1	1	21					58	
			一時保護委託	8	7	8	8	4	4	3	3	3	3	3	3	2					—	

※各月初日の在籍数と月中の入退所数（1日退所は前月の退所人数に含む。）

※各月初日の在籍数に一時保護児童は含まない。

※一時保護委託児童数は各月初日の在籍数

※在籍数の計欄は、令和6年度の月平均在籍数。入所児童数・退所児童数・一時保護委託の計は令和6年度の合計数。

※被虐待を理由とする入所児数・率は令和7年3月1日現在（一時保護含む。）

2 在籍児童の学齢別（令和7年3月1日現在 一時保護を除く。）（人）

施設名	在籍数	学齢別						
		幼児	小学生	中学生	高校生	定時制	特別支援学校	その他
石神井学園	101	4	34	28	20	5	10	0
		4.0%	33.7%	27.7%	19.8%	5.0%	9.9%	0.0%
小山児童学園	45	1	11	14	18	0	0	1
		2.2%	24.4%	31.1%	40.0%	0.0%	0.0%	2.2%
船形学園	31	0	12	10	8	0	0	1
		0.0%	38.7%	32.3%	25.8%	0.0%	0.0%	3.2%
八街学園	34	0	14	9	10	0	1	0
		0.0%	41.2%	26.5%	29.4%	0.0%	2.9%	0.0%
勝山学園	38	1	17	12	6	0	2	0
		2.6%	44.7%	31.6%	15.8%	0.0%	5.3%	0.0%
片瀬学園	35	4	12	13	6	0	0	0
		11.4%	34.3%	37.1%	17.1%	0.0%	0.0%	0.0%
計	284	10	100	86	68	5	13	2
		3.5%	35.2%	30.3%	23.9%	1.8%	4.6%	0.7%

3 退所の状況（人）

施設名	退所数	退所先					
		家庭復帰	措置変更	自立援助ホーム等	就職	進学	その他
石神井学園	19	9	3	1	2	2	2
小山児童学園	11	3	1	0	1	4	2
船形学園	3	2	0	1	0	0	0
八街学園	9	3	2	1	3	0	0
勝山学園	6	3	0	1	2	0	0
片瀬学園	7	3	0	0	1	2	1
計	55	23	6	4	9	8	5

※措置変更は、児童自立支援施設、養育家庭等である。

※就職・進学した児童数には、家庭復帰した児童は含まない。

4 中学3年生の進路（人）

施設名	在籍数	進路		
		高校進学	就職	その他
石神井学園	9	9	0	0
小山児童学園	7	7	0	0
船形学園	2	2	0	0
八街学園	3	3	0	0
勝山学園	4	3	0	1
片瀬学園	3	3	0	0
計	28	27	0	1

※高校進学・就職・その他の児童数には、家庭復帰した児童を含む。

5 高校3年生の進路（人）

施設名	在籍数	進学				就職	その他
		計	大学	短大	専門学校		
石神井学園	8	3	1	0	2	1	4
小山児童学園	8	3	0	0	3	1	4
船形学園	3	1	0	0	1	0	2
八街学園	3	2	0	0	2	1	0
勝山学園	3	0	0	0	0	2	1
片瀬学園	1	1	0	0	1	0	0
計	26	10	1	0	9	5	11

※進学・就職・その他の児童数には、家庭復帰した児童を含む。

障害者(児)施設利用実績

1 月別在籍者数及び入退所者数

(人)

施設名	定員	運用定員		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	入所率				
七生福祉園	児童	156	115	在籍数	82	81	81	81	80	80	79	80	81	83	83	85	81	70.4%			
				入所	初日入所								1	1						2	
					その他			1	1				1	1		1	2		7		
				退所	1	1			2	1									5	10	
	一時保護委託	2	2	3	4	4	4	4	5	5	7	6	6	6	6	54					
	成人	150	126	在籍数	109	108	108	108	108	108	108	107	106	105	105	104	107		0	84.9%	
				入所	初日入所																0
					その他																0
退所				1							1	1	1		1	1	6				
東村山福祉園	児童	80	80	在籍数	63	64	64	64	64	65	67	67	70	70	69	70	66	82.5%			
				入所	初日入所															0	
					その他	1				1	2		3	1			1		9		
				退所												1	4		5		
				一時保護委託	4	5	4	7	4	5	3	3	4	3	3	3	3		48		
千葉福祉園	児童	48	48	在籍数	10	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	0	7	14.6%			
				入所	初日入所	1														1	
					その他															0	
				退所	1	1								1			7		10		
	一時保護委託	1	0	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	0	15						
	成人	320	284	在籍数	189	185	184	184	183	182	181	179	177	176	176	174	181	0	63.7%		
				入所	初日入所															0	
					その他															0	
退所				4	1	0	1	1	1	2	2	1	0	2	0	15					
八王子福祉園	成人	160	120	在籍数	120	120	119	118	117	117	116	115	115	114	113	112	116	96.7%			
				入所	初日入所															0	
					その他	1										1	2		4		
				退所	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	2	0	10				
立川療護園 はごろもの音	成人	50	50	在籍数	48	48	48	49	49	49	49	49	49	49	49	49	49	98.0%			
				入所	初日入所				1											1	
					その他									1	1		1		3		
				退所					1				1	1		1	4				
希望の郷 東村山	成人	80	80	在籍数	78	78	78	78	79	78	78	78	78	78	79	78	78	97.5%			
				入所	初日入所															0	
					その他			1	1							1	1		4		
				退所			1				1								2		

※各月初日の在籍数と月中の入退所数（1日退所は前月の退所人数に含む。）

※各月初日の在籍数に一時保護委託児童は含まない。

※一時保護委託児童数は各月初日の在籍数

※在籍数の計は、令和6年度の月平均在籍数。入所児童数・退所児童数・一時保護委託の計は令和6年度の合計数。

※障害者支援施設(七生福祉園(成人)、千葉福祉園(成人)、八王子福祉園、立川療護園 はごろもの音)の在籍数は、施設入所支援の在籍数

※入所率は、〔在籍数の計〕 / 〔運用定員〕

【福祉型障害児入所施設】

1 在籍児童の年齢別（令和7年3月31日現在）

（人）

施設名	在籍数	6歳以下	7～12歳	13～15歳	16～17歳	18歳	19歳	20～25歳	26～29歳	30歳以上	平均年齢
七生福祉園	80	2	26	28	20	4	0	0	0	0	13.2歳
東村山福祉園	58	3	18	20	15	2	0	0	0	0	12.9歳
千葉福祉園	8	0	0	0	0	8	0	0	0	0	18.0歳
計	146	5	44	48	35	14	0	0	0	0	

2 障害者手帳所持状況（令和7年3月31日現在）

（人）

施設名	在籍数	愛の手帳					身体障害者手帳						重複障害
		1度	2度	3度	4度	手帳なし	1級	2級	3級	4級	5級	6級	
七生福祉園	80	0	4	30	45	1	0	0	0	2	2	0	4
東村山福祉園	58	3	55	0	0	0	4	4	2	0	0	0	10
千葉福祉園	8	0	0	0	8	0	0	1	0	0	1	0	2
計	146	3	59	30	53	1	4	5	2	2	3	0	16

3 利用形態（措置・契約）（令和7年3月31日現在）

（人）

施設名	在籍数	措置	契約
七生福祉園	80	63	17
東村山福祉園	70	34	36
千葉福祉園	8	4	4
計	158	101	57

4 退所理由

（人）

施設名	退所数	地域生活移行	他施設入所	家庭復帰	その他
七生福祉園	10	9	0	1	0
東村山福祉園	5	2	2	1	0
千葉福祉園	8	5	1	1	1
計	23	16	3	3	1

【障害者支援施設】

1 在籍者の年齢別（令和7年3月31日現在）

（人）

施設名	在籍数	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	平均年齢
七生福祉園	103	0	1	1	14	36	26	25	60.4歳
千葉福祉園	174	0	0	5	11	44	69	45	62.7歳
八王子福祉園	114	0	5	7	16	33	27	26	58.3歳
立川療護園 はごろもの音	49	0	0	5	8	17	13	6	56.4歳
希望の郷 東村山	80	0	28	24	23	5	0	0	35.4歳
計	520	0	34	42	72	135	135	102	

2 障害者手帳所持状況（令和7年3月31日現在）

（人）

施設名	在籍数	愛の手帳					身体障害者手帳						重複障害
		1度	2度	3度	4度	手帳なし	1級	2級	3級	4級	5級	6級	
七生福祉園	103	0	39	45	19	0	0	3	2	3	2	0	10
千葉福祉園	174	1	102	47	24	0	9	7	4	4	4	2	30
八王子福祉園	114	27	83	4	0	0	30	20	7	2	2	0	61
立川療護園 はごろもの音	49	1	6	2	4	35	46	6	1	0	0	0	29
希望の郷 東村山	80	13	67	0	0	0	11	3	5	1	0	0	20
計	520	42	297	98	47	35	96	39	19	10	8	2	150

3 障害支援区分（令和7年3月31日現在）

（人）

施設名	在籍数	区分1	区分2	区分3 (50歳未満)	区分3 (50歳以上)	区分4	区分5	区分6
七生福祉園	103	0	0	0	3	36	41	23
千葉福祉園	174	0	0	0	4	35	71	64
八王子福祉園	114	0	0	0	0	0	12	102
立川療護園 はごろもの音	49	0	0	0	0	0	6	43
希望の郷 東村山	80	0	0	0	0	0	1	79
計	520	0	0	0	7	71	131	311

4 退所理由

（人）

施設名	退所数	地域生活移行	他施設入所	死亡	その他
七生福祉園	6	1	5	0	0
千葉福祉園	15	0	7	6	2
八王子福祉園	10	2	0	7	1
立川療護園 はごろもの音	4	0	0	1	3
希望の郷 東村山	2	0	1	1	0
計	37	3	13	15	6

地域支援事業等 事業実績

種別	施設名	利用定員等	事業実績等				
			計 画			実 績	
生活介護事業（通所分）（第一種社会福祉事業）			年間営業日数	延べ利用者数	利用率	延べ利用者数	利用率
	八王子福祉園	20人	4,780日	3,100人	64.9%	3,598人	75.3%
	立川療護園 はごろもの音	20人	4,860日	3,650人	75.1%	2,197人	45.2%
	希望の郷 東村山	30人	7,290日	6,897人	94.6%	6,759人	92.7%
就労移行支援事業（第一種社会福祉事業）			実 績				
	七生福祉園（成人）	14人	1 施設内支援	延べ	276人		
			2 施設外支援	延べ	498人		
			3 企業就労実績		3人		
			4 職場定着支援		3人		延べ 21回
			5 実習等		1人		延べ 5件
			6 求職活動等		3人		延べ 21回
			7 体験実習受入		16人		延べ 56日
短期入所事業（第二種社会福祉事業）			計 画			実 績（空床利用含む）	
			年間営業日数	延べ利用者数	利用率	延べ利用者数	利用率
	七生福祉園（児童）	7人	2,555日	1,000人	39.1%	794人	31.1%
	七生福祉園（成人）	5人	1,825日	410人	22.5%	377人	20.7%
	東村山福祉園	10人	3,650日	2,555人	70.0%	2,647人	72.5%
	千葉福祉園（成人）	6人	2,190日	438人	20.0%	144人	6.6%
	八王子福祉園	10人	3,650日	1,500人	41.1%	1,422人	39.0%
	立川療護園 はごろもの音	6人	2,190日	1,425人	65.1%	1,096人	50.0%
	希望の郷 東村山	10人	3,650日	1,825人	50.0%	1,360人	37.3%
子育て短期支援事業（第二種社会福祉事業）			計 画			実 績	
			対象区市町村		延べ利用者数	延べ利用者数	
	石神井学園	宿泊	7人	練馬区、中央区	500人	877人	
		日帰り	8人	練馬区	50人	97人	
一般相談支援事業（第二種社会福祉事業）			計 画		実 績		/
			地域移行支援	地域定着支援	地域移行支援	地域定着支援	
	八王子福祉園		0件	-	0件	-	
	立川療護園 はごろもの音		0件	0件	0件	0件	
特定相談支援事業（第二種社会福祉事業）			実 績				
	七生福祉園（成人）※ （障害者等相談支援事業）	新規利用者	基本相談	利用調整	訪問支援	セルフプラン作成支援	
		25人	168人	342件	98件	1件	
	七生福祉園（成人） （特定相談支援事業）	計画作成	モニタリング				
		39件	97件				
	東村山福祉園	45件	129件				
	立川療護園 はごろもの音	30件	91件				
	八王子福祉園	34件	103件				
	希望の郷 東村山	49件	201件				
障害児相談支援事業（第二種社会福祉事業）			実 績				
	東村山福祉園	計画作成	モニタリング				
		15件	19件				

知的障害者短期入所事業（公益事業）			計 画			実 績	
			年間営業日数	延べ利用者数	利用率	延べ利用者数	利用率
七生福祉園（成人）	1人	365日	146人	40.0%	67人	18.4%	
知的障害者就労支援事業（公益事業）			実 績				
七生福祉園（成人） （日野市授産連携シ ステム日野わーく わーく）	1 共同販売	都立高校昼食販売 11か月 売上 2,512,495円 市役所販売 22回 売上 698,805円 地域イベント出店 18件 売上 1,074,230円					
	2 店舗販売	営業日 242日 売上 2,316,626円（うち七生福祉園分 149,200円） （ショップイベント 8回 554,132円） （うち七生福祉園分 46,200円）					
	3 共同受注	食品加工、印刷製本、加工作業、清掃業務受託、商品開発 受注 29件（種） 売上 7,019,056円 （うち七生福祉園分 2,309,773円）					
七生福祉園（成人） （障害者就労チャレ ンジ支援事業）	実 績						
	就労チャレンジ支援			就労意欲改革支援			
	実施日数	訓練参加人数	訓練参加延べ人数	参加回数	参加延べ人数		
241日	15人	467人	24回	19人			
障害者（児）日中一時支援事業（公益事業）			計 画			実 績	
東村山福祉園	5人	38日	114人	300.0%	118人	310.5%	

※ 七生福祉園（成人）の障害者等相談支援事業は、特定相談支援事業と一体的に運営している日野市からの受託事業である。

VI 事業実績

1 利用者・児童の権利擁護及び最善のサービスの提供

■ 権利擁護(虐待防止等)の徹底

	施設名	事項	計画回数	実施回数等	内容・協力機関等
児童養護施設	石神井学園	権利擁護委員会	10回	10回	子どもの権利ノート説明会、CAP研修等を実施
	小山児童学園	苦情解決・リスクマネジメント委員会	10回	10回	①児童の権利擁護(不適切な支援や虐待防止の徹底)・苦情解決に関すること ②CAP(子どもへの暴力防止プログラム)・マルトリートメント(不適切な養育)等
	船形学園	研修・権利擁護委員会	10回	10回	職員資質向上に向けての研修及び児童の権利に関する検討を行う。
	八街学園	リスクマネジメント委員会	6回	6回	不適切な支援や児童虐待の防止等に向けた取組、安全対策等
	勝山学園	虐待等防止委員会	4回	4回	不適切な支援や利用者虐待の防止等に向けた取組
	片瀬学園	権利擁護委員会	5回	5回	・不適切な支援や利用者虐待の防止等に向けた取組 ・サービス向上に向けた取組
障害施設	七生福祉園	事故防止・虐待防止委員会、小委員会	36回 (委員会12回、小委員会24回)	36回	ヒヤリ・ハット報告、虐待防止・身体拘束禁止に向けた取組、防災等の検討等
	東村山福祉園	虐待等防止委員会	12回	12回	・不適切な支援や利用者虐待の防止等に向けた取組 ・身体拘束禁止の検討及び周知
	千葉福祉園	虐待防止委員会	4回	5回	・不適切な支援や利用者虐待の防止等に向けた取組 ・身体拘束禁止の検討及び周知 ・権利擁護意識向上のための啓発活動
	八王子福祉園	虐待防止委員会	4回	4回	不適切な支援・虐待等防止に向けた検討と困難利用者及び身体拘束解決に向けた支援方法の検討
	立川療護園 はごろもの音	虐待等防止委員会	6回	6回	・不適切な支援や利用者虐待の防止等に向けた取組 ・身体拘束禁止の検討及び周知
	希望の郷 東村山	虐待防止委員会(身体拘束適正化委員会)	11回	11回 (6回)	・不適切な支援や虐待防止、風通しの良い職場作り等に向けた取組 ・身体拘束禁止の検討及び周知
各施設	権利擁護・虐待防止に関する研修(事業団共通e-ラーニング虐待防止〔総論〕研修)受講率			全施設100%	
		施設における虐待防止に関する研修実施			

■ 苦情解決制度の充実

	施設名	第三者委員(人数・属性等)	計画回数	実施回数
児童養護施設	石神井学園	3人(弁護士、民生児童委員、学識経験者)	24回	18回
	小山児童学園	3人(主任児童委員、民生・児童委員、弁護士)	12回	11回 (感染症のため1回中止)
	船形学園	3人(弁護士、地域関係者、主任児童委員)	連絡会議8回 相談J-ナ-3回 児童懇談会5回	連絡会議8回 相談J-ナ-3回 児童懇談会5回
	八街学園	2人(弁護士、元主任児童委員)	12回	12回
	勝山学園	3人(元教員2人、元職員1人)	4回	4回
	片瀬学園	3人(弁護士・学識経験者)	12回	8回
障害施設	七生福祉園	4人(社協職員、障害者施設施設長、専科講師、傾聴ボランティア)	31回	31回
	東村山福祉園	2人(地域の福祉関係者)	3回	3回
	千葉福祉園	4人(弁護士、近隣NPO法人代表、近隣自治会役員)	4回	4回
	八王子福祉園	2人(元社福施設長・福祉行政経験者)	5回	5回
	立川療護園 はごろもの音	2人(弁護士、自立生活センター事務局長)	6回	6回
	希望の郷 東村山	2人(民間法人理事、地元市行政経験者)	4回	4回

■ 利用者満足度調査の実施

	施設名	実施内容（テーマ）	時 期
児童養護施設	石神井学園	寮生活アンケートと行事の満足度調査	10月
	小山児童学園	「あなたは学園で、安心して、楽しく生活できていますか。」「学園の職員から、あなたは大切にされていると感じますか。」等、全12項目	12月 実施 3月 フィードバック
	船形学園	「学園生活満足度、児童同士及び職員からの権利侵害」	1～2月
	八街学園	「学園での生活に満足していますか?」「困っていることはありますか?」「自由意見」	11月
	勝山学園	「ほんとのきもち」	11月
	片瀬学園	学園生活アンケート	1月
障害施設	七生福祉園	利用者要望調査（児童）「生活全般について」	1月
		利用者満足度調査（成人）「生活全般について」	12月～1月
		日中活動利用者意向調査	10月
		短期入所者アンケート	第三者評価時及び利用の都度実施
	東村山福祉園	職員の接遇について	令和6年11月
	千葉福祉園	成人：外出・旅行について	10月～12月
		児童：職員の接遇について	12月～1月
	八王子福祉園	園のサービスに関する満足度	11月
	立川療護園 はごろもの音	支援全般について・暮らしについて	2月
	希望の郷 東村山	好きなこと、やりたいこと	2月

■ リスクマネジメントの徹底

	施設名	事 項	計画回数	実施回数等	内容・協力機関等
児童養護施設	石神井学園	運営会議	20回	17回	ヒヤリ・ハットの検証、改善案の作成など
		フロア代表者会議	10回	11回	ヒヤリ・ハットの検証等
		キラリ☆いのち委員会	10回	10回	性に関するヒヤリ・ハットの検証など
	小山児童学園	事故予防	適宜	10回	園内事故防止と対策について、ヒヤリハット・事故報告の分析・検証、改善策の検討等を行った。
		地震対策	2回	2回	転倒防止チェックリストを活用し、寮の危機管理意識を高めた。
		リスクマネジメント委員会	10回	10回	各寮の職員と幅広い視点で協議を行うとともに、入所児童について情報共有と注意喚起を行った。
		入所前リスクマネジメント会議	適宜	6ケース	入所にあたっては、園長、部門長、支援グループリーダー、関係機関等も交えて寮職員と一緒に事前のリスク把握と対応策確認を行った。
	船形学園	事故防止委員会	3回	3回	事故事例検討、対応策・予防策の検討
		園内一斉安全点検	4回	4回	チェックリストにより園内の安全点検
		救急救命講習会	1回	2回	派遣講師によるAED操作等講習会
	八街学園	リスクマネジメント委員会（再掲）	6回	6回	不適切な支援や児童虐待の防止等に向けた取組、ヒヤリ・ハットの検証、安全対策等
		救命救急講習	1回	1回	八街消防署による救命講習を実施した。

児童養護施設	勝山学園	事故等防止対策委員会	4回	4回	ヒヤリハット確認、園内危険箇所確認等
		救急救命講習会	1回	1回	人工呼吸方法、AED使用方法について等
		交通安全講習会	1回	1回	警察署による交通安全指導
	片瀬学園	事故防止委員会	5回	5回	ヒヤリ・ハット事例の検討、事故防止に関わる園内ルールの確認等
		交通安全講習会	1回	1回	藤沢警察署警察官による講義
		救急救命講習会	1回	1回	外部研修にて対応
		自転車運転講習会	1回	1回	小学生対象
障害施設	七生福祉園	事故防止・虐待防止委員会、小委員会【再掲】	年36回 (委員会12回、小委員会24回)	36回	ヒヤリ・ハット報告、虐待防止・身体拘束廃止に向けた取組、防災等の検討等
		救急救命講習会	3回	3回	全職員悉皆（3年に1回）
		児童向け講座	13回	13回	問題行動の抑制、改善や良好な対人関係の構築を目的とした講座
	東村山福祉園	リスクマネジメント委員会	6回	7回	ヒヤリ・ハットレポート分析・事故発生防止の取組
		緊急対応想定訓練	24回	30回	誤嚥・水没・発作転倒・所在不明など（ユニットごと年3回）
	千葉福祉園	リスクマネジメント委員会	4回 随時	4回 随時	ヒヤリ・ハット、事故事例の収集分析や再発防止策の検討
		救急救命講習会	3回	3回	AED/止血法（医師・看護師2回、消防1回）
		交通安全講習	1回	1回	運転マナー、交通法規遵守等（警察署）
	八王子福祉園	リスクマネジメント委員会	3回	3回	委員会の体制、各部会の活動方針、各部会の活動報告
		緊急通報及び応急手当訓練	56回	延51回	利用者急変時の緊急通報と初期段階の応急手当の訓練
		単独外出対応訓練	3回	2回	単独外出者発生時の対応訓練
		救命救急訓練	5回	5回	応急手当普及員による応急手当訓練の実施
	立川療護園 はごろもの音	リスクマネジメント委員会	12回 (適宜)	12回 (適宜)	年2回の委員会及びすぐやるチーム会議以外は拡大経営会議内で開催
	希望の郷 東村山	リスクマネジメント委員会	適宜	12回	ヒヤリ・ハットや自己分析、事故再発防止策等の協議・実施
		緊急対応想定訓練	16回	30回	緊急時搬送訓練、所在不明対応訓練等
危機管理委員会		随時	7回	感染症対応のため随時開催	

■ 感染症対策、新型コロナウイルス対策の徹底

	施設名	事項	計画回数	実施回数等	内容・協力機関等
児童養護施設	石神井学園	運営会議	20回	17回	感染予防、対策の検証、情報の発信
		感染症対策	適宜	適宜	感染症対策方法（嘔吐処理研修・手洗いチェック研修）や感染症の情報発信
	小山児童学園	感染症等予防	適宜	適宜	インフルエンザ予防接種の実施、看護師による感染症予防等の指導、抗原検査の実施を適宜行った。
	船形学園	衛生点検	3回	3回	感染症予防、食中毒防止、居室の衛生確認
		感染症等予防	適宜	適宜	園負担による職員へのインフルエンザ予防接種の実施、新入職員への予防接種状況の確認と不足分のワクチン接種、看護師による感染症予防対策や勉強会の実施、「ほけんだより」による情報提供や投薬など医療全般に対する指導の徹底
	八街学園	感染症予防講習会	1回	1回	園内におけるノロウイルス感染症、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症等の発生予防及び拡大防止対策
		キッチン等検査	2回	2回	各寮のキッチン、ダイニング等の衛生状態の巡回点検
勝山学園	感染症対策会議	随時	3回	感染症法上の5類移行に伴いコロナ対策会議は終了。一般の感染症対策会議は月1回園会議で協議した。感染症の流行時期に月1回の園会議において現状分析及び対応について検討した。	
片瀬学園	感染症予防研修	2回	2回	感染症対策、食中毒対策、吐しゃ物処理等、アレルギー対応等	
障害施設	七生福祉園	感染症対策会議	感染症発生時	月2回及び随時開催	新型コロナウイルス感染症対策等について、経営会議で随時検討
		感染症対応研修	2回	2回	感染防止対策の基本、嘔吐処理手順等
	東村山福祉園	危機管理委員会	不定期	46回うち書面開催43回	新型コロナウイルス感染症対応 インフルエンザ対応 水疱瘡対応
		感染症対策部会	6回	6回	感染症防止対策
	千葉福祉園	新型コロナウイルス対策本部	3回	3回	園内の感染状況の確認、感染予防対策、感染を想定した対応等の検討
	八王子福祉園	感染症対策会議	適宜	10回	新型コロナウイルス感染クラスター発生時
	立川療護園 はごろも音	感染症対策委員会	随時	隔週開催	新型コロナウイルス感染症対策の検討
希望の郷 東村山	危機管理委員会（新型コロナウイルス感染症対策・対応）【再掲】	随時	7回	感染状況の確認・対応、感染予防対策、感染を想定した対応等の検討	

■ 家族再統合への取組

	施設名	事項	計画	実績	実績児童数
児童養護施設	石神井学園	親子宿泊	延10泊	延2泊	2人
		保護者との面会	延30回	延31回	11人
		保護者との外出	延100回	延102回	23人
		保護者との外泊	延300泊	延415泊	18人
	小山児童学園	親子宿泊	延10泊	延9泊	2人
		保護者との面会・外出	延90回	延101回	27人
		保護者との外泊	延50泊	延33泊	8人
	船形学園	親子宿泊	延12泊	延10泊	5人
		保護者との面会	延76回	延49回	8人
		保護者との外泊	—	延27回	2人
	八街学園	親子宿泊	延30泊	延72泊	7人
		保護者との面会・外出	延40回	延86回	10人
	勝山学園	親子宿泊	延15泊	延44泊	5人
		保護者との面会	延42回	延30回	14人
片瀬学園	親子宿泊	延60泊	延71泊	5人	
	保護者との面会・外出	延80回	延82回	13人	

■ 自立に向けた支援

	施設名	事 項	回数等		実績児童等
			計 画	実 績	
児童養護施設	石神井学園	学習会等実施回数	10回	延14回	92人
		学習塾通塾児童数	10人	10人	対象児童：小学5年生以上76人
		自活訓練等実施回数	延210日	延182日	高校生13人
		職場体験実施児童数	6人	1人	1回
		進路決定率	100%	50%	高校3年生8人
	小山児童学園	学習会等実施回数	延120回	延104回	4人
		学習塾通塾児童数	6人	8人	対象児童：小学5年生以上45人
		自活訓練等実施回数	延49日	延202日	高校3年生8人
		進路決定率	100%	63%	高校3年生5人
	船形学園	学習会等実施回数	延24回	延0回	0人
		学習塾通塾児童数	11人	4人	対象児童：小学5年生以上25人
		自活訓練等実施回数	延77日	延63日	高校生8人
		進路決定率	100%	67%	高校3年生3人
	八街学園	学習会等実施回数	延40回	延40回	6人
		学習塾通塾児童数	8人	6人	対象児童：小学5年生以上30人
		自活訓練等実施回数	延56日	延261日	高校3年生4人
		進路決定率	100%	100%	高校3年生3人
	勝山学園	学習会等実施回数	延80回	延35回	4人
		学習塾通塾児童数	7人	9人	対象児童：小学5年生以上16人
		自活訓練等実施回数	延14日	延14日	高校2年生2人
			延126日	延126日	高校3年生3人
		進路決定率	100%	67%	高校3年生3人
	片瀬学園	学習会等実施回数	延80回	延171回	14人
		学習塾通塾児童数	2人	2人	対象児童：小学5年生以上30人
自活訓練等実施回数		延60日	延358日	高校生8人	
進路決定率		100%	100%	高校3年生1人	

■ アフターケアの充実

	施設名	計 画	実 績
児童養護施設	石神井学園	159人	116人
	小山児童学園	93人	110人
	船形学園	32人	39人
	八街学園	42人	53人
	勝山学園	49人	22人
	片瀬学園	42人	42人

■ 地域生活移行

	施設名	自活訓練事業等実施者数		地域生活移行者数	
		計 画	実 績	計 画	実 績
障害施設	七生福祉園（児童）	8人	4人	6人	10人
	七生福祉園（成人）	0人	0人	1人	1人
	東村山福祉園			1人	3人
	千葉福祉園（児童）	0人	0人	6人	7人
	千葉福祉園（成人）	0人	0人	1人	0人
	八王子福祉園			1人	2人
	立川療護園 はごろもの音			1人	0人
	希望の郷 東村山			1人	0人

■ 地域や他施設への移行に向けた取組

	施設名	事 項	計 画	実 績
障害施設	七生福祉園	グループホーム見学	20回	25回
		介護施設見学	3回	5回
	東村山福祉園	グループホーム見学	12回	2回
		障害者支援施設見学	12回	3回
	千葉福祉園	グループホーム見学	4回	6回
		障害者支援施設見学	4回	1回
	八王子福祉園	グループホーム見学	2回	3回
		介護施設見学	2回	3回
	立川療護園 はごろもの音	グループホーム等見学	2回	1回
	希望の郷 東村山	グループホーム見学	1回	5回

2 支援技術の蓄積及びそれを活かした高度なケアの提供

■計画的・効果的な研修の実施

内部研修、外部研修、施設内研修（園主催）のほか、東京都が主催する都派遣職員を対象とした研修（階層別研修・課題別研修等）へ参加している。

(1) 事務局研修

研修名	事項	研修内容	参加人数	実施時期
新任時研修	スタートアップ研修 (無資格新任職員研修)	福祉の仕事の基本理念/利用者支援の基本等	0人	5月、6月、 12月、1月
	新任職員研修(前期)	事業団の理念と求める職員像(理事長訓示)/事業団の事業概要/サービス管理/虐待防止/児童養護施設について/障害施設について/就業規則・給与・人事制度	123人	4月
	内部選考合格者研修	事業団の理念と求める職員像(理事長訓示)/正規職員としての期待/サービス管理 等	15人	10月、3月
	新任職員研修(中期)	自己理解・自己覚知	4回、127人	7月
	新任職員研修(後期)	レジリエンス	4回、121人	11月、12月
	事務職・新任職員研修	組織と仕事/接遇/ビジネス文書作成等	2人	4月
1級職	1級職現任研修	ロジカルシンキング	5回、121人	9月、10月
	2級職	2級職昇任時研修	2級職への期待/現場リーダーによる講話等	2回、43人
2級職	2級職現任研修	ファシリテーション	4回、133人	9月、10月
	3級職	サブマネージャー昇任時研修	サブマネージャーへの期待/サブマネージャーの役割/グループリーダーの職務 等	5人
サブマネージャー現任研修		チームマネジメント	18人	11月
4級職	マネージャー昇任時研修	マネージャーへの期待/プレゼンテーション/指導・講評	2人	10月
管理職	ジェネラルマネージャー昇任時研修	ジェネラルマネージャーとして期待すること/事業団職員人事制度/業績評価等	0人	8月
	事業団管理職研修	事業団概要と課題/事業団職員人事制度等	4人	4月
経営層	経営層研修	組織マネジメント	6人	12月

	研修名	研修内容	参加人数	実施時期
課題別研修	リスクマネジメント研修（基礎編）	東京都福祉保健財団主催	0人	11月
	リスクマネジメント研修（応用編）	東京都福祉保健財団主催	0人	2月
	メンタルヘルスクエア研修（全職員）	東京都医師会主催	0人	通年
	メンタルヘルスクエア研修（管理・監督者）	東京都医師会主催	0人	通年
	e-ラーニング研修（情報セキュリティ、障害者差別解消、東京都手話言語条例及び心のバリアフリー）	—	1150人	2月、3月
	e-ラーニング研修（東京都の防災対策、個人情報保護、コンプライアンス）	—	1269人	1月、2月
	e-ラーニング研修（アンガーマネジメント、虐待防止）	—	1269人	8月
	e-ラーニング研修（管理者向けハラスメント）	—	87人	12月
	人権問題研修	—	457人	1月、2月
	虐待等防止研修	—	障害306人 児童養護100人 管理監督者38人	11月、12月、1月、2月
	虐待等防止研修（監督者向け）	—	38人	2月
	コンプライアンス推進研修	—	443人	1月、2月
	スーパーバイズ力研修	子どもの虹情報研修センター主催、全国児童養護施設協議会主催、中央福祉学院主催	2人	9月～3月
	新任職員育成チューター研修	チューターとしての心構え等	64人	4月
	施設長資格取得研修	中央福祉学院主催	1人	4月
	キャリアパス対応研修（初任者研修）	東社協主催	9人	7月、8月、9月
	キャリアパス対応研修（中堅職員研修）	東社協主催	22人	10月、11月、12月
	キャリアパス対応研修（チームリーダー研修）	東社協主催	0人	1月、2月
	キャリアパス対応研修（管理職員研修）	東社協主催	1人	10月
	中核職員マネジメント力向上研修	現場の中核となるチーフ・棟総括・フロアリーダーとして、後輩職員等の指導力強化を図るとともに、リスクマネジメントの基本的知識を理解し、事故の未然防止、事故発生時の適切な対応について学ぶ。	39人	5月
	グループリーダー・マネジメント力向上研修	東京都人材支援事業団主催	8人	6月、10月
	部門長・マネジメント力向上研修	東京都人材支援事業団主催	2人	7月、11月
	クレーム対応（基礎編）	東京都人材支援事業団主催	5人	7月
	クレーム対応（組織対応編）	東京都人材支援事業団主催	4人	8月
	人権・同和問題科（基礎）	東京都人材支援事業団主催	4人	5月
	コンプライアンス推進科	東京都人材支援事業団主催	2人	7月、8月
	3年目研修	事業団職員としての気概、使命感、倫理観を養い、仕事を進めていく上での基本的知識を学ぶとともに、組織の中心を担う中堅職員として求められる考え方を認識する。	86人	6月、7月
	業績評価研修	業績評価の手法を学び、全施設で共通の基準で評価をできるようにする。	11人	10月

(2) 施設実施研修

施設名	研修内容（テーマ）	参加人数	実施時期
石神井学園	新規転入職員研修（職員マナー・仕事の進め方）	15人	4月
	新規転入職員研修（養育について・チーム支援）	17人	5月
	新規転入職員研修（フォローアップ研修）	17人	6月
	接遇マナー研修	15人	1月
	メンタルヘルス研修	13人	10月
	マルトリートメント防止研修（悉皆）	全職員	12月、1月
	CVPPP（包括的暴力防止プログラム）講習会	17人	12月
	CAP（子どもへの暴力防止プログラム）研修	16人	9月
	CARE（子どもと大人の絆を深めるプログラム）講習会	16人	11月
	専門性向上研修（発達障害の理解など）	57人	7月
	児童権利ノート学習会	17人	7月
	きらり☆いのち（性と生）学習会	12人	1月
	救命救急講習	15人	6月
	他施設交流研修（児童自立支援施設・児童相談所（一時保護所）・事業団児童養護施設等）	33人	5月～2月
小山児童学園	新転入職員基礎研修（オリエンテーション）	延36人	4月（3日間）
	権利擁護研修	支援職全員	4月、10月、12月、2月
	支援技術の向上研修（ペアトレ）	2人	10月、11月
	アンガーマネジメント研修	棟総括、寮職員全員	6月～7月、11月～1月
	事例検討会	37人	9月
	園全体研修（不登校児支援）	38人	10月
	CAP（子どもの権利について）大人ワークショップ	11人	11月
	施設見学、他機関の理解	延15人	6月、12月、1月
船形学園	次世代職員育成研修	7人	4月4日・5日、7月11日
	養護課題研修（職場内）	延42人	11月、2月
	施設視察 生活クラブ風の村（人力車・ほぐくみの村）	7人	2月
	事業団スーパーバイズ研修	延24人	6月、9月、1月
	CAP研修	13人	10月
	外部医師によるスーパーバイズ研修	延82人	5月、7月、8月、10月、1月、3月
八街学園	園内研修（課題別対応・性教育等）	42人	9月、2月
	新任職員学習会（資質向上に向けて）	延30人	6月～2月（6回）
	事例検討会（被虐待児対応等）	延45人	9月～2月（3回）
	マルトリートメント（不適切な養育）防止研修	25人	7月、9月
勝山学園	CAP研修	12人	7月
	園内人権研修（前期職場内研修）	25人	9月
	発達に課題を持つ児童への支援	16人	12月
	新任等職員育成研修	5人	5月、10月、12月
	感覚統合（後期職場内研修）	22人	1月
	ケース検討会	34人	11月
	施設見学	7人	1月

児童養護施設

	施設名	研修内容（テーマ）	参加人数	実施時期		
児童養護施設	片瀬学園	新任職員研修 ヒヤリ・ハット研修	延11人	4月、6月		
		「ペアトレ研修」	延29人	7月、8月		
		養護課題研修 「江のっ策を学ぼう!!」	延34人	6月		
		マルトリートメント（不適切な養育）防止研修 「子どものサービス向上の観点から考える子どもの支援」	34人	1月		
		感染管理研修	延56人	7月、12月		
		困難事例検討会等	延27人	5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、1月、2月		
障害施設	七生福祉園	シロイヨダネットワーク	新任・転入職員オリエンテーション	24人	4月上旬	
			地域支援研修（GH見学を含む）	9人	11月	
		基礎・基盤	基礎力養成	記録の書き方	18人	4月
				支援計画の作成方法	18人	4月
				感染症研修	10人	11月
				接遇研修	10人	5月
		反復学習	コンプライアンス推進研修	延47人	1月～3月	
			人権研修（福祉保健局研修を含む）	延53人	1月～3月	
			救命救急講習会	延67人	7月～10月	
		応用・発展	園共通	チューター研修	延30人	5月～1月
				中堅職員研修	延23人	6月、2月
				家族対応研修	18人	7月
				CVPPP（包括的暴力防止プログラム）	15人	2月
				アンガーマネジメント研修	15人	11月
				ななお再発見	10人	10月
				事例研究発表会	30人	12月
				意思決定研修	21人	10月
				チームビルディング研修	12人	10月
				ワールドカフェ	延20人	7月～12月
			障害児領域	立川療護園との合同接遇研修	10人	5月
				思春期研修	23人	10月
				ななおゼミ（児童8回）	延37人	5月～3月
		障害者領域	高齢者化対策研修（介護技術研修）	12人	1月	
			ななおゼミ（成人6回）	延17人	5月～2月	
		見学・交換研修	東村山福祉園	8人	9月	
			八王子福祉園	6人	10月	
			小山児童学園	2人	2月	
		東村山福祉園	新任・転入職員研修	延63人	4月、6月、11月、3月	
強度行動障害支援者養成研修	延24人		9月～2月			
強度行動障害支援者養成研修（講師養成・指導者養成研修）	2人		6月			
虐待防止研修（悉皆）	全職員対象		10月、11月			
コンサルテーション事業	延165人		4月2回、5月～3月毎月			
園内事例研究発表会	40人		12月			
講師依頼研修	延99人		6月～11月			
スーパーバイザー研修	延8人		5月、9月、11月、3月			
業務研修（感染症・吐物処理）	延31人		4月、11月			

施設名	研修内容（テーマ）	参加人数	実施時期
千葉福祉園	新任研修①（事業概要、職員倫理綱領他）	22人	4月
	新任研修②（BCP、健康管理室概要他）	21人	4月
	OJT研修①	15人	6月
	OJT研修②	14人	2月
	チーフ研修	13人	5月
	コミュニケーション研修（接客を含む）	35人	6月
	スーパーバイズ研修（ハラスメント防止研修）	16人	7月
	転倒防止研修/認知症研修	14人	1月
	メンタルヘルスセミナー	19人	9月
	精神科研修、感染症研修（BCP）	19人	9月
	虐待防止研修（身体拘束）	18人	10月
	虐待防止研修（職層別）	18人	1月
	事例研究発表会	39人	11月
	交通安全講習会	20人	11月
	救急救命研修①～③	延49人	5月、10月、2月
	福祉セミナー	62人	12月
	施設派遣研修	1人	2月
	園内体験研修「園ナカ留学」	29人	7月～2月
	オンライン研修（サポーターズカレッジ）	151人	通年
	チューター制度	15人	通年
自主研修の奨励（SDS）	全職員	随時	
八王子福祉園	虐待等防止研修（8回実施）事業団研修も含む	81人	4月、6月、10月、11月、12月
	新任研修（4回）	延44人	4月、6月、11月、3月
	【新規】〈課題別研修〉強度行動障害の理解（①基礎編・②応用編）	①19人 ②11人	①10月 ②11月
	〈課題別研修〉職員のためのリフレッシュ講座 ヨガ	18人	2月
	〈危機管理〉リスクマネジメント研修 ①初級 ②リスクリーダー研修 ③リスクマネジメントと権利擁護の両立	延人数 ①15人 ②20人 ③17人	① 5月 ② 7月 ③ 10月
	〈危機管理〉薬に関する研修 正しい薬の飲み方、副作用等	15人	6月
	【新規】〈危機管理〉危険個所把握研修	15人	6月
	〈危機管理〉感染症対策研修	22人	10月
	〈危機管理〉救急救命講習会	52人	4月～2月
	〈資格認定〉サービス管理責任者更新研修	2人	9月、10月
	〈資格認定〉サービス管理責任者基礎研修	1人	8月
	サービス発表会（棟単位で設定したテーマ）	37人	11月
	看取り研修	17人	8月
	棟内研修（陰部洗浄研修・地域移行研修・アンガーマネジメント研修・マインドフルネス研修・利用者体験研修・薬の効果研修・フットケア研修・胃ろう研修・コミュニケーション研修・嚥下口腔ケア等）	延181人	6月～2月

障害施設

	施設名	研修内容（テーマ）	参加人数	実施時期
障害施設	立川療護園 はごろもの音	新任・転入職員研修（実務研修）	56人	4月、5月
		救命救急講習会	14人	5月
		アンガーマネジメント研修	14人	6月
		口腔ケア研修	13人	7月
		『腰痛を防ぐ！介護技術入門』（スキルアップ研修）	13人	8月
		褥瘡ケア研修	13人	9月
		チューター研修	12人	9月
		新人フォローアップ研修	10人	10月
		『福祉サービス職員に必要な組織性の理解とコミュニケーション』（スキルアップ研修）	13人	12月
		『職員のメンタルケアを含めモチベーションの維持、人材育成方法』（スーパーバイズ研修）	12人	1月
		全国身体障害者施設協議会研修（仙台）	3人	8月
		希望の郷 東村山	新任・転入職員研修（権利擁護、心構え、ワークラ リー等）	23人
	新任・転入職員研修2（感染症対応、嚥下、強度行動 障害、個別支援計画、介護基礎等）		23人	5月
	新任・転入職員研修3（日中活動班コンセプト、心理 活動、氷山モデル、フォローアップ）		23人	9月
	新任・転入職員研修4（相談支援、1年振り返り）		17人	3月
	業務・専門研修（口腔ケア）		16人	8月
	業務・専門研修（てんかん）		17人	7月
	業務・専門研修（意思決定支援）		16人	11月
	業務・専門研修（音楽療法）		16人	2月
	業務・専門研修（おむつ研修）		15人	6月
	業務・専門研修（CVPPP）		37人	6月、2月
	虐待防止研修（悉皆）		全職員	4月～7月（全9回）
	虐待防止研修Ⅱ（悉皆） 「トップガンフィフスエレメンツ」		全職員	12月～1月（全10回）
	強度行動障害研修（年間5回）		各6人	7月2回、9月、10月、2月
	OJTチューター研修		7人	5月、9月、3月
	園内事例研究発表会		50人	12月

■ 高い専門性を発揮できる職員の育成

	施設名	事項	計画	実績
障害施設	七生福祉園	強度行動障害の基礎・実践研修の受講者	基礎2人・実践2人	基礎4人・実践3人
	東村山福祉園	強度行動障害の基礎・実践研修の受講者	基礎14人・実践7人	基礎14人・実践8人
	千葉福祉園	強度行動障害の基礎・実践研修の受講者	基礎0人・実践0人	基礎9人・実践1人
	八王子福祉園	強度行動障害の基礎・実践研修・指導者養成の受講者	基礎3人・実践3人 指導者養成2人	基礎9人・実践10人 指導者養成0人
		喀痰吸引の資格取得者（特定・不特定）	不特定1人	不特定2人
	立川療護園 はごろもの音	喀痰吸引の資格取得者（特定・不特定）	特定5人・不特定1人	特定5人・不特定1人
	希望の郷 東村山	強度行動障害の基礎・実践研修の受講者	基礎10人・実践3人	基礎17人・実践5人
強度行動障害東社協アドバンス研修		1人	1人	
強度行動障害指導者養成研修（講師養成研修）		1人	0人	

■ 専門的な支援の充実(心理職員による利用者へのケア)

	施設名		計画	実績
児童養護施設	石神井学園	個別面接	延551人 (全90人中43人、47.8%)	延265人 (全94人中31人、33.0%)
	小山児童学園		延430人 (全51人中35人、68.6%)	延594人 (全49人中38人、77.6%)
	船形学園		延432人 (全44人中30人、68.2%)	延440人 (全31人中21人、67.7%)
	八街学園		延770人 (全38人中23人、60.5%)	延533人 (全34人中28人、82.4%)
	勝山学園		延280人 (全42人中23人、54.8%)	延210人 (全35人中21人、60.0%)
	片瀬学園		延500人 (全32人中25人、78.1%)	延425人 (全40人中36人、90.0%)
障害施設	七生福祉園	個別面接	延1,155人 (全214人中90人、42.1%)	延646人 (全195人中86人、44.1%)
	東村山福祉園		延300人 (全64人中40人、62.5%)	延301人 (全70人中42人、60.0%)
	千葉福祉園		延550人 (全202人中16人、7.9%) ※成人と児童の合計	延425人 (全175人中9人5.1%) ※成人と児童の合計
	八王子福祉園		延265人 (全120人中8人、6.7%)	延187人 (全114人中10人、8.8%)
	希望の郷 東村山		延282人 (全111人中36人、32.7%)	延354人 (全112人中36人、32.1%)

■ 家庭的な寮運営

	施設名	自主調理（寮で買い物、調理）		出張調理（調理員が寮で調理）	
		計画	実績	計画	実績
児童養護施設	石神井学園	60回	136回	14回	30回
	小山児童学園	30回	30回	23回	23回
	船形学園	24回	16回	18回	12回
	八街学園	18回	18回	18回	18回
	勝山学園	24回	24回	18回	18回
	片瀬学園	120回	109回	18回	1815回

■ 実習生の受入れ等

※「0人」は、コロナ感染対策のため

	施設名	事 項	延計画人数	延実績人数
児童養護施設	石神井学園	社会福祉士・保育士等実習生の受入れ	500人	568人
		職員派遣研修等の受入れ	50人	17人
		民間施設職員の研修等の受入れ	50人	104人
	小山児童学園	保育士実習生の受入れ	396人	454人
		社会福祉士実習生の受入れ	70人	82人
		施設見学の受入れ	100人	60人
	船形学園	保育士等実習生の受入れ	346人	302人
		施設見学・研修の受入れ	30人	64人
	八街学園	保育士等実習生の受入れ	342人	279人
		事例検討会への受入れ	4人	2人
		施設見学会への受入れ	20人	28人
	勝山学園	保育士等実習生の受入れ	356人	314人
研修生の受入れ・施設見学		20人	10人	
片瀬学園	保育士等実習生の受入れ	290人	224人	
	大学ゼミ生の施設見学	20人	11人	
障害施設	七生福祉園	保育士等実習生の受入れ	734人	541人
		教職課程の介護体験受入れ	30人	0人
		高校生等実習生の受入れ	100人	3人
		施設見学の受入れ	140人	80人
	東村山福祉園	保育士等実習生の受入れ	585人	881人
		社会福祉士養成校の受入れ	40人	120人
		教員・児童相談所職員等の研修受入れ	10人	35人
		施設見学の受入れ	10人	137人
	千葉福祉園	施設実習	35人	379人
		高校生ボランティア体験	10人	11人
		施設見学	20人	24人
	八王子福祉園	保育士等実習生の受入れ	360人	229人
		職場体験の受入れ	10人	0人
		施設見学の受入れ	20人	47人
	立川療護園 はごろもの音	社会福祉士・保育士等実習生の受入れ	189人	200人
教職課程の介護体験等受入れ		15人	0人	
施設見学の受入れ		60人	176人	
希望の郷 東村山	保育士等実習生の受入れ	280人	156人	
	社会福祉士実習の受入れ	85人	32人	
	施設見学の受入れ	50人	97人	

3 施設機能を活用した地域等との連携

■ 地域における公益的な取組

	施設名	実施内容	実施回数等
児童養護施設	石神井学園	地域公開講座「こどもの心をのぞいてみよう」（菊地祐子氏・神奈川県立精神医療センター思春期精神科医師）	年1回 地域住民30人
	小山児童学園	「もしもの時に備えて、食品の家庭備蓄をしよう！」	適宜
	船形学園	園が開催する研修やCAP大人向けワークショップなどへの学校近隣施設・地域から参加	学校及び近隣養護施設
	八街学園	小中学校PTA活動への協力、子ども会活動への参画	小学校PTA 4回 中学校PTA 11回 子ども会活動 4回
	勝山学園	公開研修会「発達に課題を持つ児童への支援～施設と学校の協働」の開催	年1回 学校教員5人
	片瀬学園	地元町会と連携した学園を会場とする町内お楽しみ会 子育て講演会「どう守る？デジタルネイティブの子どもの脳」	町内会住民 12月・35人程度 藤沢市片瀬地区住民 3月・69人
障害施設	七生福祉園	都立七生特別支援学校高等部に通学する生徒を対象に、児童自活寮にて体験利用を受入れ 就労移行支援事業において、特別支援学校の通学生を対象とした就労体験（職場実習）の受入れ	3人
	東村山福祉園	障害特有の悩みに対する無料よらず相談	電話相談 2件
	千葉福祉園	近隣自治会からの依頼を受け、園の歯科医師が講師として講習会に出席 袖ヶ浦市の介護認定審査会に委員として出席 袖ヶ浦市地域総合支援協議会に委員として出席 東京都の依頼を受け、サービス管理責任者養成研修のファシリテーターとして参加	
	八王子福祉園	地域開放、園行事、地域行事	適宜
	立川療護園 はごろもの音	・市内社会福祉法人の地域貢献活動推進ネットワークである「ふくしネットたちかわ」に参画し、引きこもり等の人が社会とつながりを作るきっかけとして清掃などの軽作業やボランティアの機会を提供 ・地域交流室（tsunagari）を活用し、子ども食堂やコミュニティカフェを実施	
	希望の郷 東村山	障害者特有の悩みに対する無料よらず相談	市内・都内・他県、家族・他施設職員等からの相談

■ 多様な主体との連携

	施設名	ボランティア	NPO等
児童養護施設	石神井学園	190人（4領域）	
	小山児童学園	325人（3領域）	17人（2領域）
	船形学園	1人（1領域）	
	八街学園	29人（2領域）	15人（1領域）
	勝山学園	68人（1領域）	
	片瀬学園	355人（3領域）	
障害施設	七生福祉園	580人（1領域）	
	東村山福祉園	126人（3領域）	
	千葉福祉園	200人（5領域）	60人（2領域）
	八王子福祉園	42人（2領域）	
	立川療護園 はごろもの音	241人（4領域）	
	希望の郷 東村山	10人（3領域）	

■ 地域との連携・協力関係の強化

※「—」はコロナ感染対策等のため、中止・未実施

	施設名	内 容	対象者・実施回数・参加者数等
児童養護施設	石神井学園	アリーナ等の貸出し	近隣施設・地域団体など
	小山児童学園	地域自治会等との懇談会	都度メール等による形式で対応
		小・中学校との連絡会の開催	本村小学校教員 年1回 11人 久留米中学校教員 年1回 13人
		高齢者グランドゴルフグループへの会場提供	「野火止会」延べ443人 33回
		総合防災訓練	東久留米消防署の協力の下、学園のみで実施。みどり自治会は都合により不参加。
		盆踊り大会	「みどり自治会」等 年1回 約245人
		餅つき体験会	「みどり自治会」等 年1回 74人
	船形学園	施設開放（空手教室）	—
		施設開放（バドミントン）	—
		施設開放（地区総会）	—
		ふれあい祭	89名
		中学校連絡会・連絡協議会	5回
		小学校連絡会・連絡協議会	4回
	八街学園	子ども会（役員会）	地域子ども会 年1回 約10人
		子ども会行事（バスハイク、農業体験等）	地域子ども会 各1回 約30人
		夏祭り（自治会）	地域住民 約100人
		祭礼（秋祭り）	地域住民 約100人
	勝山学園	かっちゃん祭	地域住民等 30人
	片瀬学園	しおかぜまつり	退園生・片瀬地区青少年育成協力会・地域民生委員 11月・151人程度
		地域開放	1回 35人程度
		地域防犯パトロール	年10回
小学校「おはようボランティア」		毎週月曜日・年間37回	
障害施設	七生福祉園	児童自活寮体験利用	七生特別支援学校高等部生徒を対象 2人利用
		プール等の開放	地域の障害者団体4事業所、実施回数28回、参加人数168人
	東村山福祉園	自治会行事への積極的参加	自主防災倉庫内の防災機材の点検、安否確認訓練、どんぐり公園の美化作業、自治会主催の盆踊り大会、年末の防犯パトロール及び市役所への要望などの自治会の各種活動に参加
		災害時緊急連絡体制の連携・強化	東村山市との防災協定による福祉避難所への要援護者の受入れや清瀬特別支援学校との緊急連絡体制の確保
		施設開放	適宜

施設名	内 容	対象者・実施回数・参加者数等
千葉福祉園	地域の行事への参加	地域フェスタ・手をつなぐ作品展等
	展覧会への出品	長浦おかのうえ図書館作品展等
	行事の招待、行事備品の貸出し	近隣施設・自治会・PTA等
	歯科診療の受入れ	近隣福祉施設
	福祉セミナー・研修などへの受入れ	ボランティア団体・福祉施設関係者
	袖ヶ浦市地域支援協議会	年15回
	袖ヶ浦市介護認定審査会	月1回
	君津圏域グループホーム等連絡協議会	君津圏域福祉施設関係者 年3回
	地域連携会議	福祉行政関係、関係企業、就労系事業所、特別支援学校、福祉施設関係者他 年2回
	障害者雇用連絡会議	君津圏域福祉施設関係者 年1回
	グラウンド・大運動療法室等貸出	近隣福祉施設・スポーツ団体等
	桜を愛でる会・園まつり	近隣住民・福祉施設関係者
八王子福祉園	八王子市障害者地域自立支援協議会への参画	—
	八王子市内障害者等入所施設連絡協議会 会長施設 事務局	市内障害者等入所施設12施設会議2回参加（7月・2月実施）
	恩方地区まちづくり懇談会	八王子市、地元町会、学校等、恩方地区まちづくり懇談会に参加（2月実施）
	八王子ワークセンターとの連携	八王子市役所「はっち」作品販売
	小田野中央公園まちづくりの会事務局	役員会等に年間10回参加・秋のワークショップ（9月実施）・さくらまつり（3月中止）
	研修会の開催・講師の派遣	—
	市民センターまつりへの参画・協力	恩方市民センターまつり実行委員会（8月・9月・10月）・恩方市民センターまつり（10月実施）
	地元祭礼等への協力	8月小田野連合町会夏祭り（中止） 9月八幡神社祭礼（中止）
	盆踊り（町会との共催）	7月盆踊り大会（町会と共催）実施
	八王子市相談支援連絡会	市内相談支援事業所会議2回参加
立川療護園 はごろもの音	ボランティアコーディネーターの配置	常時
	市内社会福祉法人の地域貢献活動推進ネットワーク「ふくしネットたしかわ」参画	適宜
	地域開放	園祭などイベント（来園者200人程度）
	地域住民向けのイベント開催	園の栄養士による献立紹介などの実施
	自治会行事への積極的参加	班長会への参加、清掃活動等への参加
	災害時緊急連絡体制の連携・強化	非常時対応手当受給職員の参集訓練（毎月実施）
	地域行事への参加	福祉のつどいへの参加（実行委員として参画）
	東村山市選挙投票所	東村山市選挙管理委員会 会議室貸出 2回

障害施設

■災害・防犯対策の取組強化

	施設名	事 項	計 画	実施回数等	内容・協力機関等
児童養護施設	石神井学園	防災訓練	16回	16回	石神井消防署
	小山児童学園	防災訓練 (避難・消火訓練)	11回	11回	法令により毎月実施
			1回	1回	10月に東久留米消防署の協力・指導の下、総合防災訓練を実施
			1回	1回	「リスクマネジメント委員会」において、「事業継続計画(BCP)及び対応マニュアル」の改正内容の検討を行った
	船形学園	防災訓練	12回	12回	地震・火災発生、通報避難訓練
		緊急参集訓練	1回	1回	安否確認システムによる緊急連絡
		不審者対応講習会	1回	延3回	DVD視聴による受講
	八街学園	防災・防犯対策	12回	12回	避難・消火訓練、夜間想定訓練
			1回	1回	不審者対策
	勝山学園	伝達訓練	1回	1回	緊急連絡網による携帯電話伝達
		防災訓練	12回	12回	夜間1回
		不審者対応講習会	1回	1回	館山警察協力
	片瀬学園	防災訓練	12回	12回	火災・地震・津波避難訓練
		防災対策委員会	2回	2回	防災対策委員会については運営会議の場で合わせて実施している(3月末までに2回実施済)。
障害施設	七生福祉園	児童施設防災訓練	9回	10回	火災や地震、日中・夜間・休日等を想定した避難・通信訓練等
		成人施設防災訓練	5回	5回	
		活動支援棟防災訓練	12回	11回	
		グループホーム防災訓練	各ユニット 2回	12回	火災等発生時を想定した避難訓練
	東村山福祉園	消防訓練	11回	12回	夜間想定避難訓練等
		総合防災訓練	1回	1回	東村山消防署・近隣住民参加
		不審者対応訓練	1回	0回	
	千葉福祉園	総合防災訓練	2回	2回	避難訓練、消火訓練(消防署)、給水・炊き出し訓練
		ブロック・寮別訓練	月1回	月1回	避難訓練、消火訓練
		不審者対応訓練	1回	1回	木更津警察生活安全課による、不審者への対応、応対・連絡・通報・避難等
	八王子福祉園	防災訓練	毎月	12回	八王子消防署
		防犯訓練	1回	1回	園内への不審者の侵入を想定した防犯訓練 高尾警察署
		防火管理委員会	4回	4回	令和5年度活動報告 令和6年度防災訓練実施計画等
	立川療護園 はごろもの音	防災訓練等	6回	6回	炊出し訓練、夜間想定訓練及び災害用伝言板使用の訓練等
防災部会		4回	4回	防災訓練等の事前協議及び居室内の家具・棚類の転倒・落下防止の点検等	
希望の郷 東村山	消防訓練	12回	12回	震災火災を想定し、避難・消火訓練(夜間想定訓練を含む)	
	総合防災訓練	1回	1回	地域住民合同	

4 運営体制の強化及び経営の透明性確保

■コンプライアンスの推進

施設名	事 項	計 画	実施回数等	内容・協力機関等
全施設	コンプライアンス研修受講率	100%	99%	

Ⅶ 令和6年度苦情・要望対応報告

1 児童養護施設

(1)石神井学園

計32件、以下抜粋

NO	月日	申立人	内容	対応結果	公表方法
1	9月26日	児童 中1女子 高2女子	グループホームが古くて狭いので、引っ越したい。	グループホームの建て替えについては、子どもたちの意見も踏まえながら事業団や東京都にお願いしている旨を説明すると、納得が得られた。 (令和7年度予算化)	本人たちへの回答
2	9月27日	児童 小6男子	サッカーのスパイクやトレーニングシューズを買いたいので、被服費を増やしてほしい。	それぞれの費目は予算が決められており、その中で計画的に使うことが大事。高額なものの購入について、寮職員と相談するように伝えると納得を得られた。	本人への回答
3	1月24日	児童 中3男子	データは消去してもいいので、家から自分のスマホを持ってきて使いたい。	スマホに関しては、データを消去しても、本体に様々な情報が入っている可能性もあり、自宅で使っていたスマホをつかうことはできないことを説明すると納得した。	本人への回答

(2)小山児童学園

計3件、以下抜粋

NO	月日	申立人	内容	対応結果	公表方法
1	5月26日	地域住民	学園の垣根の枝が伸びて、道路に出ているので切って欲しい。	ちょうど剪定の時期なので、速やかに対応いたしますと回答。	申立人へ謝罪
2	5月26日	地域住民	学園西門の扉が常に音がしてうるさい。開けたら閉めるを徹底して欲しい。	丁寧に謝罪し、園内全体へ注意喚起し今後は扉を閉めるようにしますと回答。併せて、扉に注意喚起のためのステッカーを貼付した。	申立人へ謝罪
3	2月17日	東久留米市 シルバー人材センター	付き添い登下校を行っている小学男児について、付き添っている会員に暴力行為があった。特性のある児童であることは理解しているので、どのように対応/注意すれば良いか等、教えて欲しい。	まずは丁寧に謝罪し、担当寮へ報告する旨を伝えた。併せて、日頃から児童には暴力はしてはいけないと寮職員は指導しており、暴力行為があった時にはその場で担当寮へご報告いただけるとありがたいと回答。	申立人へ謝罪

(3)船形学園

計2件、以下抜粋

NO	月日	申立人	内容	対応結果	公表方法
1	6月20日	児童 中1女兒 中2女兒	意見箱に「職員が中学生にだけあたりが強い」等と書かれた園長あての手紙が投函されていた。	園長との面談を行い、投書に至るまでの状況と今後どのようにしてほしいかヒアリングをした。 本人たちからは、要望は特にないとのことだった。	本人
2	1月28日	児童 中1女兒 中2女兒	児童が千葉県子どもと親のサポートセンターに「職員に腕を掴まれたり、抱きつかれたりした」と申し出があった旨、連絡が入った。	申し出者、関係職員へそれぞれ聞き取りを行ったうえで、苦情相談員へ内容を共有し、解決策について意見助言を受けた。 行為については、安全配慮義務上、必要なものだったと判断し、本人たちへの理解が得られるよう努めた。	本人職員

(4)八街学園

計24件、以下抜粋

NO	月日	申立人	内容	対応結果	公表方法
1	4月16日	児童	職員が他の寮に取られた（異動した）。早く返してほしい。	本児は、園内で他寮に異動した担当職員のことを慕っており、その職員に戻ってきてほしいことを訴えている。本児は新しい職員との関係を築きながら、現実を受入れつつも、園内で前任職員の姿を見ると納得できない気持ちになってしまう様子である。 所属寮の職員も、異動が発表された時から、本児の訴えに耳を傾けており、本児の不安な気持ちに寄り添いながら対応しているところである。	本人寮職員
2	5月6日	児童	自分のスマホが持ちたい。	本児は中学3年生であり、早く自分のスマホを持ちたいという気持ちが強いが、手続きが中々進んでいないと感じており、今回、相談カードを投函して自分の要望を訴えている。 本児の今の気持ちや要望について、園長や第三者委員等が聞き取りを行い、夏休みを目前に個人用スマホが使用できるよう、対応を進めることとなった。	本人寮職員
3	6月29日	児童	寮で友達にうるさいって言われたけど、友達と仲よくなりたい。	本児は、入所から3週間程が経ち、徐々に学園での生活環境に慣れてきており、職員との関係も良好に築きつつある中で、同じ寮の年下児童との間で職員を取り合うような形となっている。本児や年下児童の状況については、寮職員も十分把握しており、日々の関わりの中で、本児たちの思いをくみ取り、寄り添いながら対応を図っているところである。	本人寮職員

(5)勝山学園

計3件、以下抜粋

NO	月日	申立人	内容	対応結果	公表方法
1	5月17日	児童 小6女兒 小6女兒 小4女兒 小3女兒	(苦情相談箱へ投函) 在籍している男児児童がうるさい。まじでうるさいからうち4人にかかわらないでほしい。	支援グループリーダーが4名個別に人とのかわり方について話をし、それぞれが納得。	本人たちへの回答
2	12月12日	小2女兒	(苦情相談委員来園時に児童が直接相談) 下校時右耳がピーとなっていていやな気持ちになるから職員に言った。	ナースに相談をと回答。	本人へ回答
3	12月12日	小4男児	(苦情相談委員来園時に児童が直接相談) 寝るときに同室小6男児がデスクライトを自分に向けてくる。自分にライトを向けないでほしい。20時30分に消してほしい。	どういう思いかわかってもらう。安心できるよう職員に話をしてみてもどうか伝えると本人は話してみますと回答。	本人へ回答

(6)片瀬学園

計11件、以下抜粋

NO	月日	申立人	内容	対応結果	公表方法
1	10月頃	近隣住民	児童がグラウンドでスピーカーで音楽を鳴らしているのがうるさい。	電話対応 匿名であったが近くのマンションの住民と推測できる。園内において、大きな音量で音楽を聞かないように周知するとともに、グラウンドで遊ぶ時間など再確認を行った。	申立て人へ謝罪 職員
2	6月12日	児童 小5女兒	(職員への不満を表す内容) (父宅への)外泊のこと。(本児童の)体調が悪いからダメと言われた職員全員に(対して)	学園長対応(面談) ※本児童は発熱、体調不良等が続き、4日間ほど入院治療を要するほどで、父宅への外泊予定がされていたが健康状態不良のため、入院直前の頃に職員から本児童へ中止(延期)するように伝えられていた。 気持ちを聞き、次を楽しみにしていると納得している。	本人 職員
3	7月19日	児童 小3男児	〇〇(寮)になりたい 〇〇〇寮になりたい	学園長対応(面談) 本児から意見内容の確認を行った後、寮を移ることは約束できないが、本児の気持ちは、事務所にいる職員(寮の職員には言わないで欲しい)に伝えておくと伝える。	本人 職員

2 障害者(児)施設

(1)七生福祉園

計19件、以下抜粋

NO	月日	申立人	内容	対応結果	公表方法
1	5月15日	利用者 (児童)	同室の〇〇さんがTVを覗きに来るのがうっとうしい。部屋を離してほしい。	児童の組み合わせで2人部屋にできる方がいない状況。名前の出た児童の動向に留意するほか、個室化工事の要望を上げていく。	園内周知
2	6月19日	利用者 (児童)	職員によって、麺の茹で具合やご飯の炊き具合がバラバラなので、ちょうどよくできるようにみんなに教えてほしい。	ちょうどいいという職員に合わせられるよう周知する。	職員
3	10月16日	利用者 (児童)	学校で、〇〇くんが距離が近い。体を触ってきて、誰にも言わないで、って言う。〇〇くんにも、去年学校で体を触られた。	学校・児相・園で三者会議を実施。加害児への個別指導、謝罪の場を設けること及び本児への支援方法について確認を行った。	園内周知

(2)東村山福祉園

計2件、以下抜粋

NO	月日	申立人	内容	対応結果	公表方法
1	10月15日	近隣住民	グランド工事による土ぼこりがひどいので、何らかの対処をしてほしい。	工事施工業者に連絡し、対応を依頼（盛り土にシートをかぶせ、水撒きをこまめに行う対応となる。）	なし (匿名のため)
2	12月6日	近隣住民	グランドと当家敷地との境界塀が改修されたが、位置がずれたことで当家の仕切り壁との間に隙間ができてしまった。何らかの対応が予定されているのか確認したい。	財務局担当者に連絡し、対応を依頼（工事業者が隙間をふさぐ工事をすることとなる。）	なし (匿名のため)

(3)千葉福祉園

計3件、以下抜粋

NO	月日	申立人	内容	対応結果	公表方法
1	9月	利用者 (成人)	寮職員でノックせず居室に入るときがあった。	担当GLに相談内容を伝え、事実確認を行った。 訪室する際は「ノックをする、または声を掛けて入室する」ということを確認しており、本人にも説明、了承を得ているところだが、引き続き丁寧な説明を心がける。	本人
2	11月	利用者 (成人)	寒くなってきたのでトレーナー着てきた。部屋が寒い。	担当GLに相談内容を伝え、事実確認を行った。 室温は利用者の状況に応じて設定しているところだが、寮内職員で情報共有する。本人の様子や空調に気にかけて支援していく。	本人
3	2月	利用者 (成人)	花粉症で鼻が苦しくなってきた。薬飲んでない。	担当GLに相談内容を伝え、事実確認を行った。 鼻の爛れで受診しているが、花粉症とは診断されていない。花粉症の認識について本人に確認したところ「花粉症じゃないけどさ、鼻水が出るんだよ。」ということだった。引き続き本人の様子に気にかけて健康管理を行っていく。	本人

(4)八王子福祉園

計0件、以下抜粋

NO	月日	申立人	内容	対応結果	公表方法
1			なし		

(5)立川療護園 はごろもの音

計60件、以下抜粋

NO	月日	申立人	内容	対応結果	公表方法
1	6月15日	女性利用者	年々聞き取りが困難かつ職員の話が聞こえているのかと不安になる様子が続いている事から、顔をご本人に近づけて聞き取り、話す職員がいる。 ニコニコされているので職員は気にされていないかと思っていたが、ご本人から「顔を近づけて怖い。」と話がある。 手を触れることは「良いっ!」とニコッとされていましたが、顔の正面から近付かれると「怖い」との事。耳元に顔を近付けるのは「良い」とのこと。	その場で傾聴し、頂いたご意見を職員へ早期に周知した。	本人職員委員会
2	9月27日	女性利用者	近くのローソンに夕方買い物に行き、買いたい物が取りにくい状況だったので、店員に声をかけたら「警察呼びますか」と言われたと。迷子等と間違われたかは不明ですが、ご本人は「もう行かない」と話されておりGLに伝えておきたかったとの事。	委員会で報告し、第三者委員からご意見をいただく。移転後、近隣のコンビニやスーパーに挨拶に伺うも、その後の取り組みが行われていなかったため、定期的に情報交換を行っていく。	本人職員委員会
3	11月3日	男性利用者	ナースコールを応答後、20分程お待たせしてしまい、お叱りを受ける。5分ほどでお伺いできる算段でお伝えしていたが、他利用者様の対応が伸びてしまい結果その時間になってしまった。ご本人から「何かあったのは分かるんだけどさ。待たせすぎ、一声かけてくれるだけでいいんだから」と。	職員に配慮が足りず、待たせしてしまった事に対して謝罪。 今回の件に限らず、想定外に訪室時間が延びることが分かった時点での利用者に状況を伝えていく。	本人職員委員会

(6)希望の郷 東村山

計2件、以下抜粋

NO	月日	申立人	内容	対応結果	公表方法
1	10月1日	地域住民	施設南側の垣根に、パン粉を巻いている人がいてカラスがゴミを散らかしている。また、垣根の角の木が道に出ている。何とかしてほしいとの電話連絡。	東村山交番の地域課に、電話しパトロール強化を依頼した。また、家庭ゴミなど不法投棄注意のポスターを掲示した。 木や枝の伐採を業者に依頼した。	なし
2	2月28日	家族	①給食業者が変わったことで給食の質が落ちている。公開されている契約金と見合った内容には思えない。 ②献立が毎食変更されている。白米が多く献立で出されている提供カロリーとタンパク質の数字が違うのではないかと。	①公開されている契約金は、5年契約分であり1年分と勘違いされていた。説明を行った。 ②『給食について』のお便りを作成した。訴えてきたご家族の利用者が召し上がっている献立は、特別食であり、普通献立ではなかったことなど、詳しく説明を行った。	家族向けお便り
3	3月2日	家族	休日のエントランス入口の開閉について	土日祝日は、通用玄関からの出入りをお願いしている。すでに何度もお願いしているがご理解いただけない。台風など、よほどの悪天候の場合はユニット職員の協力を得て開閉する予定である。	家族連絡会などで周知